仙台市文化財調査報告書第343集

上　野　遺　跡

—第8次発掘調査報告書—

2009年3月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第343集

上　野　遺　跡

—第８次発掘調査報告書—

2009年３月

仙台市教育委員会

序　文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日頃から多大なご協力を賜り、まことに感謝にたえません。

仙台市南西部の山田・富田地区周辺は市内でも遺跡が数多く分布する地域であり、その中でも上野遺跡は「仙台市縄文の森広場」として整備された山田上ノ台遺跡や桜の名所でもある三神峯遺跡などとともに、市内の代表的な縄文時代の集落跡のひとつです。

今回の発掘調査は、平成19年度に開通した都市計画道路「富沢山田線」北側の取り付け道路建設に伴うもので、平成16年度に行われた上野遺跡第６次調査の北側になります。縄文時代中期の食料を蓄えるために掘られたものと考えられるフラスコ状の土坑が数多く発見され、集落の中の貯蔵地域が北側に広がることが確認されました。また、古代の竪穴住居跡も発見され、各時代に人々が居住していた状況を考える上で貴重な資料が得られました。本書はそれらの成果をまとめたものであります。

先人たちの残した貴重な文化遺産を保護し、活用しながら市民の宝として永く後世に伝えていくことは、これからの「まちづくり」に欠かせない大切なことであります。ここに報告する調査成果が広く活用され、文化財に対するご理解と保護の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の刊行にあたり、多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことを深く感謝申し上げ、刊行の序といたします。

平成21年３月

仙台市教育委員会
教育長　荒井　崇

例　言

1．本書は、都市計画道路富沢山田線取り付け道路建設工事に伴う埋蔵文化財の調査報告書である。
2．発掘調査は、仙台市教育委員会の指導のもとに、株式会社玉川文化財研究所が行った。
3．本書の作成及び編集は、仙台市教育委員会文化財課主濱光朗、株式会社玉川文化財研究所麻生順司が行った。
4．本書の執筆は、土濱光朗の指導のもとに下記の通り行った。
　第Ⅰ章第1節・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・主濱光朗
　第Ⅰ章第2節、第Ⅱ章～第Ⅵ章・・・・・・・・・・・・麻生順司
5．出土土器の観察表については小林義典の協力を得た。
6．調査と報告書作成にあたり、板橋吾平治氏のご協力を賜った。記して感謝の意を表す次第である。
7．調査及び報告書作成に関する諸記録、出土遺物等の資料は、仙台市教育委員会が保管している。

凡　例

1．土層注記に記載している土色は、「新版標準土色帖」(小山・竹原 1977) に基づいて認定した。
2．本書に使用した地形図は、国土地理院発行の1：25,000『仙台西南部』の一部を使用している。
3．調査の際の平面座標基準は、日本測地系直角平面座標第Ⅹ系を基にしている。
4．本書に使用した遺構挿図縮尺は、平面図1/200・1/100・1/60・1/30、断面図1/60・1/30である。
5．本書に使用した遺物挿図縮尺は、2/3・1/3・1/6である。
6．遺物の登録は種別ごとに行い、番号の前に以下のような略号を付している。
　A：縄文土器　C：非ロクロ使用の土師器　K：石器　P：土製品
7．本書で使用した遺構略号は以下の通りである。
　SD：溝跡　SI：竪穴住居跡　SK：土坑　P：ピット

目　　次

序　文
例　言・凡　例

第Ⅰ章　調査の概要 …… 1
　第1節　調査に至る経緯 …… 1
　第2節　調査要項 …… 1

第Ⅱ章　遺跡の位置と歴史的環境 …… 1

第Ⅲ章　調査の方法と経過 …… 2

第Ⅳ層　基本層序 …… 3

第Ⅴ章　検出遺構と出土遺物 …… 4
　第1節　縄文時代 …… 4
　　1．土　坑 …… 4
　　2．ピット …… 28
　　3．包含層出土遺物 …… 28

　第2節　古代以降 …… 35
　　1．竪穴住居跡 …… 35
　　2．土　坑 …… 37
　　3．溝　跡 …… 38

第Ⅵ章　ま　と　め …… 41

写真図版 …… 43

報告書抄録 …… 巻末

挿 図 目 次

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 2
第２図　第４次～８次調査の調査区設定図 …… 3
第３図　縄文時代遺構配置図 …… 5
第４図　ＳＫ１～６土坑 …… 6
第５図　ＳＫ７～15土坑 …… 8
第６図　ＳＫ16～20土坑 …… 10
第７図　ＳＫ21土坑・ＳＫ23～26土坑 …… 12
第８図　土坑出土遺物（１） …… 14
第９図　土坑出土遺物（２） …… 15
第10図　土坑出土遺物（３） …… 16
第11図　土坑出土遺物（４） …… 17
第12図　土坑出土遺物（５） …… 18
第13図　土坑出土遺物（６） …… 19
第14図　土坑出土遺物（７） …… 20
第15図　土坑出土遺物（８） …… 21
第16図　土坑出土遺物（９） …… 22
第17図　土坑出土遺物（10） …… 23
第18図　土坑出土遺物（11） …… 24
第19図　土坑出土遺物（12） …… 25
第20図　土坑出土遺物（13） …… 26
第21図　土坑出土遺物（14） …… 27
第22図　ピット出土遺物 …… 27
第23図　包含層出土遺物（１） …… 28
第24図　包含層出土遺物（２） …… 29
第25図　包含層出土遺物（３） …… 30
第26図　包含層出土遺物（４） …… 31
第27図　包含層出土遺物（５） …… 32
第28図　包含層出土遺物（６） …… 33
第29図　古代以降遺構配置図 …… 34
第30図　ＳＩ１竪穴住居跡 …… 35
第31図　ＳＩ１竪穴住居跡出土遺物 …… 36
第32図　ＳＫ22土坑 …… 37
第33図　ＳＫ22土坑出土遺物 …… 37
第34図　ＳＤ１～５溝跡 …… 39
第35図　ＳＤ６溝跡 …… 40
第36図　ＳＤ４溝跡出土遺物 …… 40

表　目　次

第１表　土坑観察表 …… 13
第２表　ピット計測表 …… 28

写　真　図　版　目　次

写真図版１　１．遺跡遠景（南西から）
２．第６次調査区と第８次調査区
写真図版２　１．調査区全景（北東から）
２．調査区南側全景（東から）
写真図版３　１．ＳＩ１（南西から）
２．ＳＩ１遺物出土状態（南東から）
３．ＳＩ１遺物出土状態（南西から）
４．ＳＩ１カマド（南西から）
５．ＳＩ１カマド土層断面（西から）
写真図版４　１．ＳＫ１・２（南西から）
２．ＳＫ３（北西から）
３．ＳＫ４土層断面（北から）
４．ＳＫ４（北から）
５．ＳＫ５土層断面（南から）
６．ＳＫ５～８、ＳＤ６（南から）
７．ＳＫ９土層断面（東から）
８．ＳＫ９（東から）
写真図版５　１．ＳＫ10～12・20（南から）
２．ＳＫ20遺物出土状態（南から）
３．ＳＫ14・15（南西から）
４．ＳＫ15土層断面及び遺物出土状態（北東から）
５．ＳＫ13・26（南東から）
６．ＳＫ16（南東から）
７．ＳＫ17（北西から）
８．ＳＫ18（南から）
写真図版６　１．ＳＫ19（北西から）
２．ＳＫ19遺物出土状態（東から）
３．ＳＫ19土偶頭部出土状態（南東から）
４．ＳＫ21・22（南西から）
５．ＳＫ23土層断面及び遺物出土状態（東から）
６．ＳＫ23（北西から）
７．ＳＫ24（東から）
８．ＳＫ25（南西から）
写真図版７　１．ＳＤ１（北東から）
２．ＳＤ２・３（西から）
３．ＳＤ４（南東から）
４．ＳＤ５（南西から）
写真図版８　土坑出土土器（１）
写真図版９　土坑出土土器（２）
写真図版10　土坑出土土器（３）
写真図版11　包含層出土土器
写真図版12　出土石器（１）
写真図版13　出土石器（２）
写真図版14　出土石器（３）
写真図版15　竪穴住居跡・土坑・溝跡出土土器

第Ⅰ章　調査の概要

第1節　調査に至る経緯

平成19年1月26日付で、仙台市道路管理者仙台市長梅原克彦より、仙台市太白区富田字上野中14－2外地内において、市道富沢山田線道路改良工事に伴う取り付け道路（275㎡）建設工事にかかる発掘通知が提出された。

当該地は、都市計画道路「富沢山田線」の北側に位置し、平成16年度に実施された、上野遺跡第6次調査区の北側にあたり、縄文時代中期中葉の遺構群及び古代の遺構が検出されることが想定されていたところである。仙台市教育委員会と太白区建設部道路課との協議により、平成19年6月1日から発掘調査を実施することとなった。

第2節　調査要項

1．遺跡名称　上野遺跡（宮城県遺跡地名登録番号01002・仙台市文化財登録番号C－108）
2．所在地　宮城県仙台市太白区富田字上野中14－2外地内
3．調査原因　都市計画道路富沢山田線取り付け道路建設工事に伴う埋蔵文化財の事前調査
4．調査主体　仙台市教育委員会（生涯学習部文化財課）
5．調査担当　調査係主査　主濱光朗
　　調査係主任　工藤信一郎
　　主任調査員　小林義典（株式会社玉川文化財研究所）
　　調査員　麻生順司（株式会社玉川文化財研究所）
6．調査期間　平成19年6月1日～平成19年7月13日
7．調査面積　286㎡

第Ⅱ章　遺跡の位置と歴史的環境

上野遺跡は、宮城県仙台市太白区富田字上野中地内に所在し、JR東北本線仙台駅の南西約6.5km、同じく太子堂駅の西約3km、地下鉄南北線富沢駅の西約2kmに位置する。地形的には仙台市の南側を南東方向に流れる名取川下流域の左岸にあたり、広瀬川と名取川に挟まれた通称「名取台地」の東端に位置する。名取川は本遺跡の南約700mに位置し、この付近から川幅が広くなる。広瀬川との合流点は遺跡の東約5kmの地点となる。遺跡は周囲との比高差約4～8m、範囲約東西800×南北700mを測る標高約30mの独立した河岸段丘上に広がる。今回調査した第8次調査地点は上野遺跡の南側を東西に横切る都市計画道路富沢山田線の北側にあたり、この都市計画道路に繋がる取り付け道路の部分である。上野遺跡内の都山計画道路範囲は東西約280mを測り、台地上は平坦ながらも東に向かって緩やかに傾斜し、東端部で崖線となって急激に落ち込む地形を呈する。数十年前までは二の段丘崖の下には湧水をためた「イケ」（洗い場）が点在し、生活用水として利用されていた。

上野遺跡は01002（C－108）として登録され（仙台市教育委員会 1995）、古くから知られている仙台市域を代表する縄文時代遺跡である（松本 1930、伊東 1950）。過去に行われた上野遺跡の調査は、遺跡範囲の西端を南北に延びる市道十字交線を対象とした第3次調査（金森・工藤・千葉 1986）、今回調査した地区の隣接地にあたる電力鉄塔建設に伴う第4次調査（結城 1989）、そして遺跡範囲の南部を東西に横切る都市計画道路富沢山田線拡幅工事に伴う第5次～7次調査（工藤・中山 2004他）があり、他に1976年、1981年にも小規模な調査が行われている（主濱 1995、結城 1989）。特に平成16年から17年にかけて行われた第6次・7次調査では縄文時代中期後半に属する竪穴

第1図　遺跡の位置と周辺の遺跡（◉調査地点）

住居跡40軒、400基を超える土坑群と大量の土器を含む溝状の不明遺構等が発見されており、上野遺跡の内容が明らかになりつつある。

上野遺跡の周辺に位置する主な遺跡としては、本遺跡の西側に大きく広がる②山田条里遺跡（縄文・古代・近世）、その西方の河岸段丘上には「縄文の森」として保存・整備された③山田上ノ台遺跡（旧石器・縄文・古代・近世）、④北前遺跡（縄文・古代・近世）がある。本遺跡の南側には名取川に沿って⑤船渡前遺跡（縄文・弥生・古代）、⑥南ノ東遺跡（古代）が位置し、その東側には⑦鍛冶屋敷A遺跡（縄文・古代）、⑧鍛冶屋敷前遺跡（縄文・古代）、⑨富沢窯跡（中世）、⑩下ノ内遺跡（縄文・弥生・古代）、⑪山口遺跡（縄文・弥生～近世）、⑫富沢遺跡（旧石器～近世）等の多くの遺跡が確認されている（第1図）。

第Ⅲ章　調査の方法と経過

今回の調査は、都市計画道路富沢山田線の取り付け道路であり、上野遺跡第6次調査の北側に隣接する畑地部分にあたる。調査区の形状はほぼ「く」字形を呈し、調査面積は286㎡である（第2図）。

調査は、6月1日より調査区の北側から重機による表土掘削を開始し、その後に人力による包含層調査及び遺構確認作業を行った。その結果、抜根によるものと推測される撹乱とともに調査区のほぼ全体に遺構の存在が確認された。なお、調査区の北側については、工事計画上掘削深度が及ばないことから遺構確認までの予定であったが、その多くが撹乱であったことから調査を終了することとした。

第２図　第４次～８次調査の調査区配置図

調査はその後、これらの遺構についての精査・写真撮影・遺構実測等の作業を行って、７月４日に全景写真を撮影した。現地作業は、調査終了後に遺構確認面までの埋め戻しを行い、７月13日にすべての作業を終了した。なお、調査による発生土は調査範囲外の畑地に仮り置きした。

現地での測量・実測図作成については、基本的にはトータルステーションによって行ったが、土層断面図については手実測を採用した。なお、測量の際の座標数値は日本測地系（第Ⅹ系）を使用した。

第Ⅳ章　基本層序

調査区内の土層堆積状態は、伐根等の近現代に行われた撹乱が著しいものであった。遺構確認面は基本的にⅢ層上面であるが、撹乱等により表土直下が遺構検出面となる部分も認められた。調査区内の標高はほぼ水平な状況であり、現表土から遺構確認面までの深さは約40cmであった。

本遺跡の基本層序は以下のとおりである。基本的に第５次調査時の所見を踏襲しているので柱状図は図示していない（工藤・中山 2004）。

Ⅰａ層－褐色砂質シルト（10YR4/4～6）　現表土・耕作土層である。締まり、粘性に欠く。

Ⅰｂ層－暗褐色砂質シルト（10YR3/4）　旧耕作土である。締まり、粘性は弱い。

Ⅰｃ層－にぶい黄褐色粘土質シルト（10YR4/3）　黄色（Ⅴ層）のブロックを多量に含み、締まり、粘性は弱い。耕作に伴うトレンチャー等を主体とする撹乱土層である。

Ⅱ　層－黒褐色粘土質シルト（10YR2/3）　締まりが強く、粘性に富む。縄文時代中期の土器片を含む遺物包含層である。遺構の堆積土も本土層に類似したものが多く認められる。

Ⅲ　層－暗褐色粘土（10YR3/4）　締まりが強く硬い土層で、粘性に富む。遺構の掘り込み面は土層堆積の観察から本層上面となる。

Ⅳ　層－褐色シルト（10YR4/6）　締まり、粘性とも強く、明褐色シルト（Ⅴ層）の斑紋を主体とする漸移層である。層全体が淡い斑紋状を呈し、締まりが強く、硬い部分も認められた。

Ⅴ　層－明褐色シルト（10YR6/8）　締まり、粘性に富む。

Ⅵ　層－黄褐色砂礫（10YR5/8）　粗い砂粒の中に径１～３cm・５～10cmの円礫を混入する。

Ⅶ　層－黄褐色砂（10YR5/6）　比較的細かな砂粒を主体とし、水平・斜位のラミナが観察される。

第Ⅴ章 検出遺構と出土遺物

第1節 縄文時代

縄文時代に属する遺構としては、竪穴住居跡は確認されずに土坑25基とピットが9個検出されただけであった。今回の調査区は前述のように撹乱が著しいことから、この影響により消滅してしまった土坑も多数に上るものと推測され、遺構は調査区内全体に広がっていたものと考えられる（第3図）。土坑はフラスコ状土坑として捉えられる形態のものが11基確認された。

1．土 坑（第4～7図、第1表、写真図版4～6）

ＳＫ1土坑（第4図、写真図版4－1）

調査区西端のＥ－21グリッドに検出され、調査区の西側にさらに広がるものと考えられる。ＳＫ2土坑と重複関係にあり、本遺構の方が新しい。規模は確認部分で1.05×1.05mである。平面形は楕円形を基調としたものである。堆積土は砂質シルトの単層であり、確認面からの深さは23cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がる。遺物は縄文土器少量と石器1点が出土し、土器2点とスクレイパー1点を図示した。

ＳＫ2土坑（第4図、写真図版4－1）

調査区西端のＥ－21グリッドに検出され、ＳＫ1土坑・ＳＤ1溝跡と重複関係にあり、本遺構が最も古い。規模は残存部で1.54×1.45mである。平面形は不整楕円形を基調とするものと思われる。堆積土は砂質シルトを主体とした3層に分けられ、確認面からの深さは39cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦であるが、東側に0.7×0.5m、深さ9cmのピットがある。遺物は礫が1点出土した。

ＳＫ3土坑（第4図、写真図版4－2）

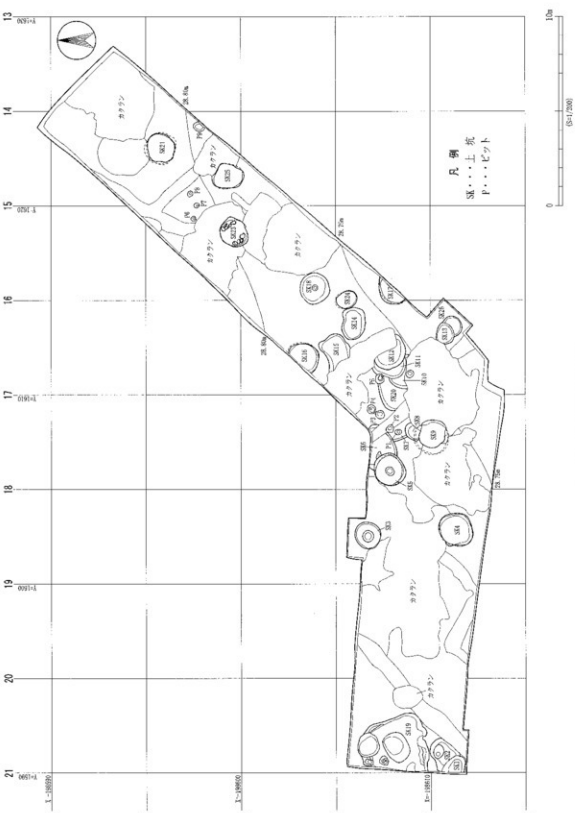
調査区中央部やや西寄りのＤ－19グリッドに検出され、遺構の底面近くから上部にかけてのほとんどが撹乱により削平されている。残存部の規模は1.39×1.35mである。平面形は円形である。堆積土は暗褐色の砂質シルトを主体とした6層に細分され、壁高は最も高いところで57cmである。一部残存する壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。底面は壁際が高くなっており、径約60cm、深さ16cmのピットを持つ。このような形状から、本遺構の形態としては底面に小ピットを持つタイプのフラスコ状土坑として捉えられるものと考えられる。遺物は縄文土器が少量出土し、土器2点を図示した。

ＳＫ4土坑（第4図、写真図版4－3・4）

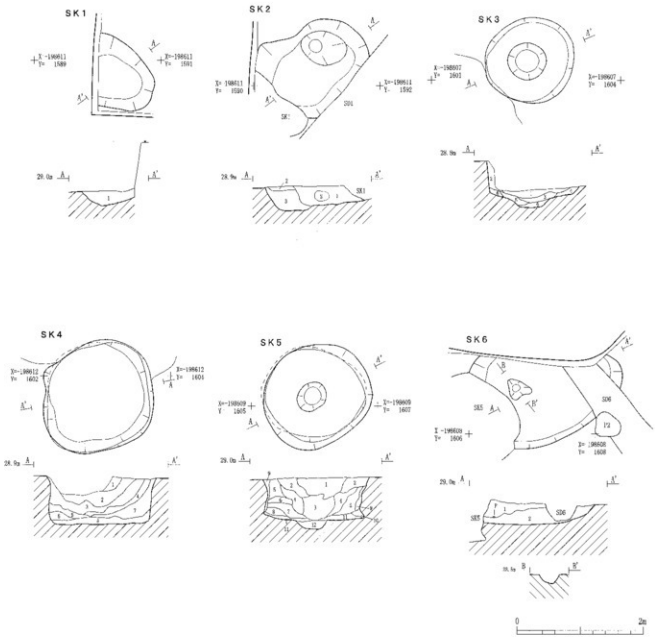
調査区中央部やや西寄りのＥ－19グリッドに検出され、ＳＫ3土坑の南側に位置する。本遺構も北側上端の一部が撹乱により削平されている。規模は1.91×1.75mである。平面形は不整円形である。堆積土は小礫を多く含む暗黄褐色の砂質シルトを主体とする8層に細分され、壁高は76cmである。壁は底面から急角度に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。形態としては底面施設を持たないタイプのフラスコ状土坑として捉えられるものと考えられる。遺物は縄文土器数点と石器1点が出土し、土器1点と石錘1点を図示した。

ＳＫ5土坑（第4図、写真図版4－5・6）

調査区中央のＤ－18グリッドに検出され、ＳＫ3土坑の東側に位置する。ＳＫ6土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。規模は1.72×1.56mである。平面形は楕円形である。堆積土は暗褐色の砂質シルトを主体とする12層に細分される。壁は底面から一部オーバーハングしながら急角度に立ち上がる。壁高は68cmである。底面は平坦で、中央に径約45cm、深さ15cmのピットを持つ。形態としては本遺構も底面施設を持つフラスコ状土坑として捉えられる。遺物は縄文土器と石器が少量出土し、土器1点と石錘2点、微細剥離痕のある剥片1点、礫石器1点を図示した。



第３図　縄文時代遺構配置図



遺構	層位	土色	土性	備考
SK1	1	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	黄色シルト塊粒多量含む。
SK2	1	10YR3/3 暗褐	砂質シルト	黄色シルト粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐	砂質シルト	黄色シルト粒微量含む。
	3	10YR5/6 黄褐	砂質シルト	黄色シルト塊状主体。
SK3	1	10YR5/2 灰黄褐	砂質シルト	小礫含む。
	2	10YR3/3 暗褐	砂質シルト	黄色シルト塊粒少量含む。
	3	10YR3/4 暗褐	砂質シルト	黄色シルト粒少量含む。
	4	10YR4/6 褐	砂質シルト	黄色シルト粒多量含む。
	5	10YR2/2 黒	粘土質シルト	炭化粒少量含む。
	6	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	黄色シルト塊粒多量含む。
SK4	1	10YR6/6 明黄褐	砂質シルト	砂礫含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐	砂質シルト	礫含む。
	3	10YR4/6 褐	砂質シルト	黄色シルト塊粒多量、小礫含む。
	4	10YR5/2 にぶい黄褐	砂質シルト	黄色シルト塊粒多量含む。
	5	10YR2/3 黒褐	砂質シルト	小礫含む。
	6	10YR3/3 暗褐	砂質シルト	黄色シルト粒少量含む。

遺構	層位	土色	土性	備考
SK4	7	10YR5/8 黄褐	砂質シルト	黄色シルト主体。
	8	10YR2/3 黒褐	砂質シルト	黄色シルトブロック含む。
SK5	1	10YR3/2 黒褐	砂質シルト	炭化粒細微量含む。
	2	10YR2/3 黒褐	砂質シルト	黄色シルト粒少量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	黄色シルト斑状多量含む。
	4	10YR3/4 暗褐	砂質シルト	黄色シルト粒少量含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐	砂質シルト	黄色シルト粒多量含む。
	6	10YR3/3 暗褐	砂質シルト	黄色シルト粒少量含む。
	7	10YR3/4 にぶい黄褐	砂質シルト	黄色シルト粒少量含む。
	8	10YR2/4 極暗	砂質シルト	炭化粒少量含む。
	9	10YR6/4 にぶい黄褐	砂質シルト	黄色シルトブロック多量含む。
	10	10YR3/3 暗褐	砂質シルト	黄色シルト粒少量、炭化粒微量含む。
	11	10YR2/3 黒褐	砂質シルト	炭化粒少量含む。
	12	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	黄色シルトブロック多量含む。
SK6	1	10YR3/2 黒褐	砂質シルト	黄色シルト粒少量、炭化粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐	砂質シルト	黄色シルト斑状多量含む。

第4図 ＳＫ1～ＳＫ6土坑

ＳＫ６土坑（第４図、写真図版４－６）

調査区中央のＤ－18グリッドに検出され、調査区の北側にさらに広がる。本遺構はＳＫ５土坑・ＳＫ７土坑・ＳＤ６溝跡との間に重複関係があり、ＳＫ７土坑より新しく、ＳＫ５土坑・ＳＤ６溝跡より古い。検出部分の規模は2.05×1.79mで、平面形は楕円形を基調とするものと考えられる。土坑の断面形状はやや深めの皿状である。堆積土は褐色の砂質シルトを主体とする２層に分けられる。壁高は29cmで、壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦であるが、中央からやや東側には36×31cm、深さ13cmの不正形なピットを持つ。遺物は縄文土器が少量出土した。

ＳＫ７土坑（第５図、写真図版４－６）

調査区中央のＤ－18グリッドに検出され、ＳＫ６土坑の南側に位置する。ＳＫ６土坑・ＳＫ８土坑・ＳＤ６溝跡・ピット１・２と重複関係にあり、本遺構が最も古い。また、遺構の南端部は撹乱により削平され、底面から西側壁の一部が残存するのみである。残存部の規模は1.4×0.9mであるが平面形は不明である。堆積土は暗褐色の砂質シルトを主体とする２層に分けられる。残存部の壁高は25cmで、壁は底面から急角度で立ち上がる。底面はほぼ平坦である。遺物は出土していない。

ＳＫ８土坑（第５図、写真図版４－６）

調査区中央のＤ－18グリッドに検出され、ＳＫ７土坑の南側に位置する。ＳＫ７土坑・ＳＫ９土坑と重複関係にあり、ＳＫ７土坑より新しく、ＳＫ９土坑よりも古い。また、遺構の南東部は撹乱により削平されている。残存部の規模は0.93×0.71mで、平面形は不整楕円形を基調とするものと考えられる。堆積土は暗褐色の砂質シルトを主体として２層に分けられる。壁高は22cmで、壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は細かな凹凸はないが南東部が最も低い。遺物は出土していない。

ＳＫ９土坑（第５図、写真図版４－７・８）

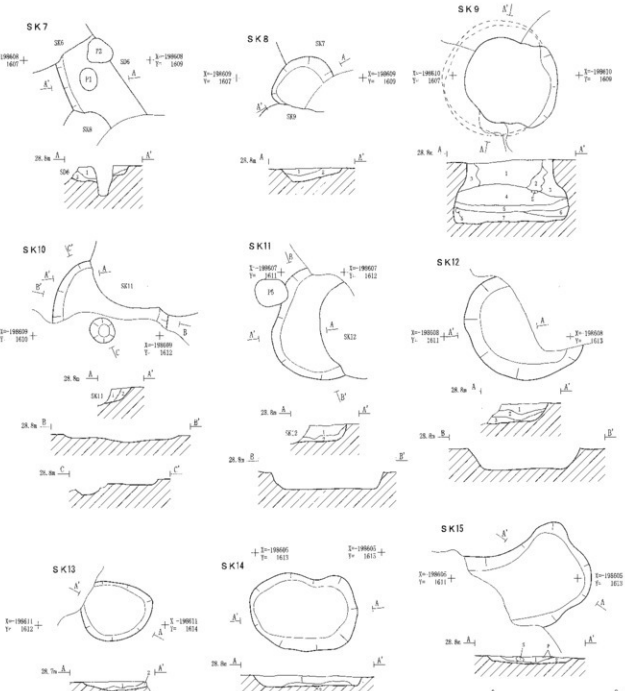
調査区中央のＤ・Ｅ－18グリッドに検出され、ＳＫ８土坑の南に位置する。ＳＫ８土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。また、遺構の東半分は底面付近まで撹乱により削平されていた。残存部の規模は口径が1.36×1.23m、底径は1.7×1.63mの不整な円形である。堆積土は暗褐色の砂質シルトを主体として７層に細分され、部分的に炭化物・小礫・砂を混入する。壁は底面から大きくオーバーハングしながら立ち上がり、壁高は99cmである。底面は平坦である。遺構の形状は底面施設を持たないフラスコ状土坑として捉えられる。遺物は縄文土器が出土し、そのうちの１点を図示した。

ＳＫ10土坑（第５図、写真図版５－１）

調査区中央のＤ－17グリッドに検出され、ＳＫ９土坑の東北東に位置する。ＳＫ20土坑・ＳＫ11土坑と重複関係にあり、ＳＫ20土坑より新しく、ＳＫ11土坑より古い。また、遺構の南半分は撹乱により削平されている。残存部の規模は1.8×1.3mで、平面形は円形を基調とするものと考えられる。堆積土は黄褐色の砂質シルトを主体とする２層に分けられる。残存部の壁高は23cmで、壁は底面から緩やかに立ち上がる。遺構の中央部付近と考えられる部分は撹乱によって上部を削られているが、径約40cm、深さ16cmのピットが確認されていることから、底面施設を持つフラスコ状土坑として捉えられる可能性がある。遺物は縄文土器が少量出土し、土器１点を図示した。

ＳＫ11土坑（第５図、写真図版５－１）

調査区中央のＤ－17グリッドに検出され、ＳＫ10土坑の北東に位置する。ＳＫ20土坑・ＳＫ10土坑・ＳＫ12土坑・ピット５と重複関係にあり、ＳＫ20土坑・ＳＫ10土坑より新しく、ＳＫ12土坑・ピット５より古い。また、遺構の北端部は撹乱により一部が削平されている。残存部の規模は1.69×1.24mで、平面形は楕円形を基調とするものと考えられる。堆積土は黄褐色の砂質シルトを主体とする２層に分けられる。残存部の壁高は27cmで、壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。遺物は縄文土器と石器が少量出土し、土器２点と二次加工のある剥片１



遺構	層位	土色	土性	備考
SK7	1	10YR3/2 黒褐	砂質シルト	炭化粒少量、黄色シルト粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐	砂質シルト	黄色シルト斑状少量含む。
SK8	1	10YR3/4 暗褐	砂質シルト	黄色シルト粒少量、炭化粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐	砂質シルト	黄色シルト斑状含む。
SK9	1	10YR3/1 黒褐	砂質シルト	炭化粒微量、礫含む。
	2	10YR3/3 暗褐	砂質シルト	黄色シルト斑状少量。炭化粒微量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐	砂質シルト	黄色シルト斑状多量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐	砂質シルト	黄色シルトブロック多量。礫多く含む。
	5	10YR2/3 黒褐	砂質シルト	炭化粒多量、礫少量含む。
	6	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	粉多く含む。黄色シルト粒多量。
	7	10YR5/2 灰黄褐	砂質シルト	砂土体。
SK10	1	10YR5/2 灰黄褐	砂質シルト	黄色シルト斑状多量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	黄色シルトブロック含む。

遺構	層位	土色	土性	備考
SK11	1	10YR5/2 灰黄褐	砂質シルト	黄色シルト斑状多量、炭化粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	黄色シルト斑状多量含む。
SK12	1	10YR3/3 暗褐	砂質シルト	炭化粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	黄色シルト斑状少量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐	砂質シルト	黄色シルトブロック少量含む。
SK13	1	10YR3/2 黒褐	砂質シルト	炭化粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐	砂質シルト	黄色シルト粒多量含む。
SK14	1	10YR2/3 黒褐	砂質シルト	黄色シルト粒少量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐	砂質シルト	黄色シルト斑状多量含む。
SK15	1	10YR3/3 暗褐	砂質シルト	炭化粒少量。上器片含む。
	2	10YR5/6 黄褐	砂質シルト	黄色シルト斑状主体。

第5図　ＳＫ７～ＳＫ15土坑

点を図示した。

ＳＫ12土坑（第５図、写真図版５－１）

調査区中央のＤ－17グリッドに検出され、ＳＫ11土坑の東に位置する。ＳＫ11土坑と重複関係にあり、本遺構の方が新しい。また、遺構の北西側半分は撹乱により削平されている。残存部の規模は1.87×1.63mで、平面形は楕円形を基調とするものと考えられる。堆積土は暗黄褐色の砂質シルトを主体とする３層に分けられる。残存部の壁高は34cmで、壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。遺物は縄文土器が少量出土し、土器１点を図示した。

ＳＫ13土坑（第５図、写真図版５－５）

調査区中央のＥ－17グリッドに検出され、ＳＫ12土坑の南南東に位置する。ＳＫ26土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。また、遺構の北西端部は撹乱により一部が削平されている。残存部の規模は1.12×0.94mで、平面形は不整楕円形である。堆積土は暗褐色の砂質シルトを主体とする２層に分けられる。残存部の壁高は15cmで、壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は平坦だが中央が低くなっている。遺物は縄文土器が少量出土し、土器１点を図示した。

ＳＫ14土坑（第５図、写真図版５－３）

調査区中央部やや北東寄りのＤ－17グリッドに検出され、ＳＫ13土坑の北に位置する。規模は1.69×1.19mで、平面形は不整長楕円形である。堆積土は黒褐色の砂質シルトを主体とする２層に分けられる。壁高は18cmで、壁は底面から緩やかに立ち上がるが、西側部分はやや急角度で立ち上がる。底面は平坦である。遺物は縄文土器が少量出土し、土器１点を図示した。

ＳＫ15土坑（第５図、写真図版５－３・４）

調査区中央部やや北東寄りのＣ・Ｄ－17グリッドに検出され、ＳＫ14土坑の北西に位置する。遺構の南西部は撹乱により削平されている。残存部の規模は1.69×1.32mで、平面形は不整楕円形を基調とするものと考えられる。堆積土は褐色の砂質シルトを主体とする２層に分けられる。残存部の壁高は13cmで、壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は平坦であるが細かい凹凸が見られる。遺物は縄文土器と石器・礫が出土し、土器６点と微細剥離痕のある剥片１点を図示した。

ＳＫ16土坑（第６図、写真図版５－６）

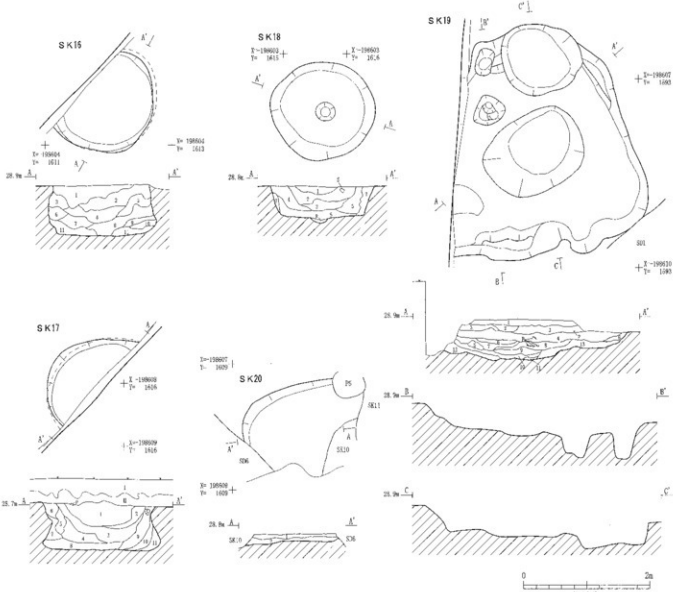
調査区中央部やや北西寄りのＣ－17グリッドに検出され、ＳＫ15土坑の北に位置する。調査区の壁際に検出され、北西側は調査区外に広がる。検出部分の規模は1.72×1.2mで、平面形は円形を基調とするものと考えられる。堆積土は暗褐色の砂質シルトを主体として11層に細分され、部分的に炭化物を混入する。壁高は82cmで壁は部分的にオーバーハングしながら垂直に立ち上がり、底面は平坦で底面施設を持たないフラスコ状土坑として捉えられる。遺物は縄文土器と石器が少量出土し、土器４点と剥片１点を図示した。

ＳＫ17土坑（第６図、写真図版５－７）

調査区中央部やや東寄りのＤ－16・17グリッドに検出され、ＳＫ16土坑の南東に位置する。本遺構も調査区の壁際に検出され、南東側は調査区外に広がる。検出部分の規模は1.76×0.75mで、平面形は円形を基調とするものと考えられる。堆積土は黒褐色の砂質シルトを主体として11層に細分され、炭化物を混入する。壁高は75cmで、壁はオーバーハングしながら立ち上がり、底面は平坦で底面施設を持たないフラスコ状土坑として捉えられる。遺物は縄文土器と石器が少量出土し、土器１点を図示した。

ＳＫ18土坑（第６図、写真図版５－８）

調査区中央部やや北東寄りのＣ－16・17グリッドに検出され、ＳＫ17土坑の北側に位置する。規模は1.65×1.58mで、平面形は円形である。堆積土は暗褐色の砂質シルトを主体とする８層に細分される。壁高は51cmで、壁は底



遺構	層位	土色	土性	備考
SK16	1	10Y3/3 暗褐	砂質シルト	黄色シルト粒・炭化粒少量含む。
	2	10YR4/4 にぶい黄褐	砂質シルト	黄色シルト混粒多量。黄色シルトブロック含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐	砂質シルト	黄色シルト主体。
	4	10YR4/4 にぶい黄褐	砂質シルト	黄色シルト粒多量。炭化粒微量含む。
	5	10Y3/5-6 黄褐	砂質シルト	黄色シルトブロック少量含む。
	6	10YR3/3 暗褐	砂質シルト	黄色シルトブロック少量含む。
	7	10Y3/5-6 黄褐	砂質シルト	黄色シルト主体。
	8	10YR3/4 暗褐	砂質シルト	黄色シルト粒多量。炭化粒少量含む。
	9	10YR3/1 黒褐	砂質シルト	炭化粒多量含む。
	10	10YR5/6 明黄褐	砂質シルト	黄色シルトブロック主体。
	11	10Y3/2-3 黒褐	砂質シルト	黄色シルト粒多量。炭化粒少量含む。
SK17	1	10YR4/2 灰黄褐	砂質シルト	黄色シルト粒少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐	砂質シルト	炭化粒微量含む。
	3	10YR4/4 褐	砂質シルト	黄色シルト粒多量。炭化粒微量。
	4	10YR4/1 褐灰	砂質シルト	黄色シルト混粒多量含む。
	5	10YR3/3 暗褐	砂質シルト	炭化粒少量含む。
	6	10YR3/5 黄褐	砂質シルト	黄色シルト粒多量含む。
	7	10YR4/2 灰黄褐	砂質シルト	黄色シルトブロック多量含む。
	8	10YR2/2 黒色	砂質シルト	炭化粒多量。黄色シルト粒少量含む。
	9	10YR3/2 黒褐	砂質シルト	炭化粒多量含む。
	10	10YR4/2 灰黄褐	砂質シルト	黄色シルト混粒多量含む。
	11	10YR5/3 にぶい黄褐	砂質シルト	炭化粒多量含む。

遺構	層位	土色	土性	備考
SK18	1	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	黄色シルト混粒少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐	砂質シルト	黄色シルトブロック少量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	黄色シルトブロック多量含む。
	4	10Y3/4-6 褐	砂質シルト	黄色シルト混粒少量含む。
	5	10YR3/1 黒褐	砂質シルト	黄色シルト粒少量含む。
	6	10YR2/3 黒褐	粘土質シルト	黄色シルト粒少量含む。
	7	10YR5/6 黄褐	砂質シルト	黄色シルトブロック多量含む。
	8	10YR3/3 暗褐	粘土質シルト	黄色シルト粒少量含む。
SK19	1	10Y3/3 暗褐	砂質シルト	黄色シルト粒少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐	砂質シルト	炭化粒多量含む。
	3	10YR3/1 黒褐	砂質シルト	黄色シルト粒少量。炭化粒微量含む。
	4	10YR4/1 褐灰	砂質シルト	黄色シルト混粒多量。炭化粒微量含む。
	5	10YR5/2 灰黄褐	砂質シルト	黄色シルト粒多量。黄色シルトブロック含む。
	6	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	黄色シルトブロック含む。
	7	10YR4/1 褐灰	砂質シルト	黄色シルト粒少量。炭化粒微量含む。
	8	10YR2/2 黒褐	砂質シルト	炭化粒少量。土器片含む。
	9	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	黄色シルト粒少量含む。ウミナ状薄層。
	10	10YR3/2 黒褐	砂質シルト	黄色シルト混粒少量。
	11	10YR6/6 明黄褐	砂質シルト	黄色シルト粒多量。黄色シルトブロック含む。
	12	10YR5/2 灰黄褐	砂質シルト	黄色シルト粒多量。黄色シルトブロック含む。
	13	10YR4/1 褐灰	砂質シルト	黄色シルトブロック含む。ラミナ状。
SK20	1	10YR3/2 黒褐	砂質シルト	炭化粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	黄色シルト粒多量含む。

第6図 ＳＫ16～ＳＫ20土坑

面から台形状に角度を持って立ち上がる。底面はほぼ平坦で、径約30cm、深さ8cmのピットを持ち、形態としては底面施設を持つフラスコ状土坑として捉えられる。遺物は縄文土器と石器が少量出土し、土器1点と石錐1点、二次加工のある剥片1点を図示した。

ＳＫ19土坑（第6図、写真図版6－1～3）

調査区西端のＤ－21グリッドに検出され、ＳＫ2土坑の北に位置する。遺構は調査区の壁際で検出され、西側は調査区外に広がる。検出部分の規模は3.4×3.66mで、他の土坑と比べて大きな規模を持つ。平面形は緩辺が蛇行する不整三角形状の不整形な形状である。堆積土は黒褐色の砂質シルトを主体とした13層に細分され、ラミナ状の堆積状況である。遺構の断面形は凹凸を持った皿状であり、確認面からの深さは64cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、段が付く部分もある。また、底面は細かな凹凸と1.58×1.2m、深さ14cmと1.28×1.19m、深さ23cmの落ち込み及び53×45cm、深さ39cmと45×25cm、深さ44cmのピットが確認された。遺物は縄文土器と石器が今回の調査遺構としては最もまとまって検出され、このうち縄文土器46点と土製品1点及び各器種の石器30点を図示した。

ＳＫ20土坑（第6図、写真図版5－1・2）

調査区中央のＤ－17・18グリッドに検出され、ＳＫ10土坑の西に位置する。ＳＫ10土坑・ＳＫ11土坑及びＳＤ6溝跡・ピット5と重複関係にあり、本遺構が最も古い。また、土坑の南側は撹乱により削平されている。残存部の規模は2.02×1.57mで、平面形は重複と撹乱により不明である。堆積土は黒褐色と黄褐色の砂質シルト層に分けられる。残存部の壁高は18cmで、壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は凹凸はないが中央が低くなっている。遺物は縄文土器と石器が出土し、土器4点と石器4点を図示した。

ＳＫ21土坑（第7図、写真図版6－4）

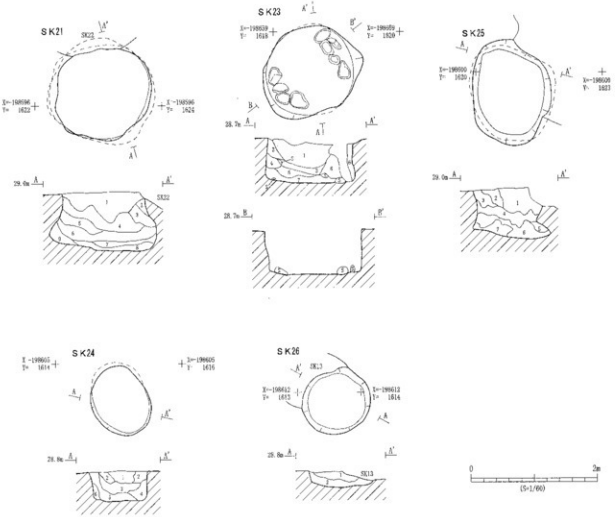
調査区北東のＢ－15グリッドに検出され、縄文時代の遺構としては最も北側に位置する。古代以降と考えられるＳＫ22土坑と重複しており、一部を削平されている。規模は1.6×1.49mで、平面形は不整円形である。堆積土は黄褐色から黒褐色の砂質シルトを主体として9層に細分され、炭化物や砂礫を混入する。壁は底面から大きくオーバーハングしながら立ち上がり、壁高は93cmである。底面はほぼ平坦であるが、北側が低くなっており、底面に施設を持たないフラスコ状土坑として捉えられる。遺物は縄文土器が出土し、そのうちの1点を図示した。

ＳＫ23土坑（第7図、写真図版6－5・6）

調査区北東のＢ・Ｃ－16グリッドに検出され、ＳＫ21土坑の南西に位置する。古代のＳＩ1竪穴住居跡と重複しており、さらに撹乱により削平されている。規模は1.59×1.39m、底径は1.59×1.49mで、平面形は円形である。堆積土は暗褐色の砂質シルトを主体として7層に細分され、部分的に砂礫と炭化物を混入する。壁高は72cmで、壁は部分的にオーバーハングしながら垂直に立ち上がる。底面は平坦でピットを持たないフラスコ状土坑として捉えられる。また、底面には北東側と南西側の壁面に沿って大型礫が列状に配置された状況で検出された。遺物は縄文土器と石器・礫が出土し、土器1点と底面の配石に転用された石皿や砥石3点及び堆積土第1層中から出土した石棒1点を図示した。

ＳＫ24土坑（第7図、写真図版6－7）

調査区中央部やや北東寄りのＤ－16・17グリッドに検出され、ＳＫ14土坑の東に位置する。規模は1.11×0.89mで、平面形は楕円形である。堆積土は黒褐色の砂質シルトを主体とする6層に細分される。壁高は47cmで、壁は部分的にオーバーハングしながら急角度で立ち上がり、底面はほぼ平坦である。形態としては底面施設を持たないやや小型のフラスコ状土坑として捉えられる。遺物は縄文土器と石器が少量出土し、土器2点と礫石器1点を図示した。



遺構	層位	土色	土性	備考
SK21	1	10YR3/3 暗褐	砂質シルト	黄色シルト粒少量。炭土粒微量。小礫含む。
	2	10YR3/5 にぶい黄褐	砂質シルト	黄色シルトブロック主体。
	3	10YR4/2 灰黄褐	砂質シルト	黄色シルトブロック少量含む。
	4	10YR4/4 褐	砂質シルト	黄色シルト主体。砂礫多く含む。
	5	10YR3/2 黒褐	砂質シルト	黄色シルトブロック少量含む。
	6	10YR3/1 黒褐	砂質シルト	炭化粒多量。黄色シルト粒少量含む。
	7	10YR3/3 暗褐	砂質シルト	黄色シルトブロック多量含む。
	8	10YR3/3 暗褐	砂質シルト	炭化粒多量。黄色シルト粒少量含む。
	9	10YR3/4 暗褐	砂質シルト	黄色シルト粒少量含む。
SK23	1	10YR4/2 灰黄褐	砂質シルト	砂礫含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	黄色シルト炭粒多量含む。
	3	10YR3/4 暗褐	砂質シルト	黄色シルト粒少量含む。
	4	10YR5/6 黄褐	砂質シルト	黄色シルト主体。
	5	10YR3/3 暗褐	砂質シルト	砂礫多く含む。
	6	10YR4/4 褐	砂質シルト	黄色シルト炭粒多量含む。
	7	10YR3/2 黒褐	砂質シルト	黄色シルト粒・炭化粒少量含む。

遺構	層位	土色	土性	備考
SK24	1	10YR3/2 黒褐	粘土質シルト	炭化粒多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐	粘土質シルト	黄色シルト粒・炭化粒少量含む。
	3	10YR3/4 暗褐	粘土質シルト	黄色シルト粒少量含む。
	4	10YR3/2 黒褐	粘土質シルト	黄色シルト粒程含む。炭化粒少量含む。
	5	10YR3/3 暗褐	粘土質シルト	黄色シルト粒多量含む。
	6	10YR2/3 黒褐	粘土質シルト	黄色シルトブロック含む。炭化粒少量含む。
SK25	1	10YR3/2 黒褐	粘土質シルト	黄色シルト粒少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐	粘土質シルト	炭化粒少量含む。
	3	10YR3/3 暗褐	粘土質シルト	黄色シルト粒少量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐	粘土質シルト	黄色シルト炭粒多量含む。
	5	10YR3/2 黒褐	粘土質シルト	炭化粒少量含む。
	6	10YR4/3 にぶい黄褐	粘土質シルト	黄色シルトブロック多量含む。
	7	10YR4/4 褐	砂質シルト	炭化粒少量。ラミナ状の堆積。
SK26	1	10YR2/3 黒褐	砂質シルト	炭化粒少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	黄色シルト炭粒多量含む。

第７図　ＳＫ21土坑・ＳＫ23～ＳＫ26土坑

ＳＫ25土坑（第７図、写真図版６－８）

調査区北東のＢ－15グリッドに検出され、ＳＫ23土坑の東に位置する。遺構の東側の一部を攪乱により削平されている。残存部の規模は1.68×1.31ｍで平面形は楕円形を基調とするものと考えられる。堆積土は暗褐色から黒褐色の砂質シルトを主体として７層に細分され、炭化物を少量混入する。壁高は77㎝で、壁は底面から大きくオーバーハングしながら立ち上がる。底面は西側に向かって緩やかに傾斜しており、底面に施設を持たないフラスコ状土坑として捉えられる。遺物は縄文土器と石器が少量出土し、土器１点と礫石器１点を図示した。

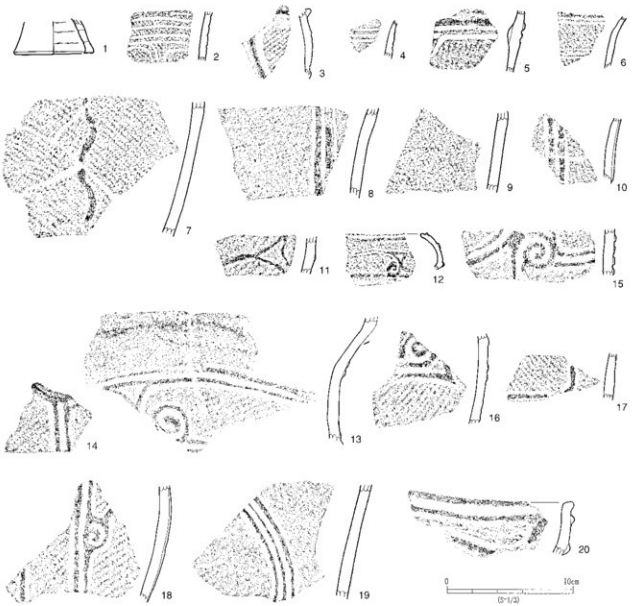
ＳＫ26土坑（第７図、写真図版５－５）

調査区中央のＥ－17グリッドに検出され、ＳＫ13土坑の南東に位置する。ＳＫ13土坑と重複関係にあり、本遺構が古い。残存部の規模は1.08×１ｍを測り、平面形は円形である。堆積土は黒褐色の砂質シルトを主体とする２層に分けられる。残存部の壁高は27㎝で、壁は底面から急角度で立ち上がる。底面にはやや凹凸が見られる。遺物は出土していない。

第１表　土坑観察表

（推定）、〈残存〉

№	上端		下端		底面ピット（長軸×短軸×深さ）(cm)	重複など（旧→新）	備考	時期
	平面形	規模（長軸×短軸・深さ）(cm)	平面形	規模（長軸×短軸）(cm)				
1	（楕円形）	〈105〉×〈105〉・23	（楕円形）	〈72〉×65	－	SK2→SK1	西側調査区外。	縄文（大木8a・b）
2	不整楕円形	〈154〉×〈145〉・39	楕円形	〈131〉×90	70×50×9	SK2→SK1・SD1	底面北東側で段を有する。高低差11㎝。	
3	円形	139×135・57	円形	127×125	61×59×16	－	フラスコ状土坑。攪乱によって上端の大半が削平されている。	縄文（大木8a・b）
4	不整円形	191×〈173〉・76	略円形	154×149	－		北側上端が攪乱で失われている。フラスコ状土坑。	縄文（大木8a・b）
5	楕円形	172×156・68	卵形	165×150	49×42×15	SK6→SK5	フラスコ状土坑。	縄文（大木8a・b）
6	（楕円形）	〈205〉×〈179〉・29	（楕円形）	〈190〉×〈129〉	36×31×13	SK7→SK6→SK5・SD6	北側部分は調査区外。	
7	不明	〈140〉×〈90〉・25	－	－	－	SK7→SK6・SK8・SD6		
8	不整楕円形	93×〈71〉・22	不整楕円形	66×〈53〉	－	SK7→SK8→SK9		
9	（円形）	136×〈123〉・99	円形	170×163	－	SK8→SK9	フラスコ状土坑。	縄文（大木8a・b）
10	（円形）	180×〈130〉・23	（円形）	148×〈116〉	41×37×16	SK20→SK10→SK11→SK12	南側は攪乱で削平されている。フラスコ状土坑の可能性あり。	縄文（大木8a・b）
11	（楕円形）	〈169〉×〈124〉・27	（楕円形）	〈156〉×〈108〉	－	SK20→SK10→SK11→SK12		縄文（大木8a・b）
12	（楕円形）	〈187〉×〈163〉・31	（楕円形）	〈135〉×〈122〉	－	SK11→SK12	東側は攪乱で削平されている。	縄文（大木8a・b）
13	楕円形	112×94・15	楕円形	93×79	－	SK26→SK13	北西側が攪乱で削平されている。	縄文（大木8a・b）
14	長楕円形	169×119・18	長楕円形	148×91	－	－		縄文（大木8a・b）
15	不整楕円形	〈169〉×132・13	不整楕円形	〈137〉×96	－	－	西側が攪乱で削平されている。	縄文（大木8a・b）
16	（円形）	172×〈120〉・82	（円形）	147×〈109〉	－	－	北西側が調査区外。フラスコ状土坑。	縄文（大木8a・b）
17	（円形）	176×〈75〉・75	（円形）	196×〈64〉	－	－	南東側半分が調査区外。フラスコ状土坑。	縄文（大木8a・b）
18	不整円形	165×158・51	楕円形	133×117	31×29×8	－	フラスコ状土坑。	縄文（大木8a・b）
19	不整形	〈340〉×366・64	－	－	158×120×14 128×119×23 53×45×39 45×25×44	－	西側部分が調査区外。底面に凹凸あり。	縄文（大木8a・b）
20	不明	〈202〉×〈157〉・18	－	－	－	SK20→SK16・SK11・SD6・T6	重複が激しい。	縄文（大木8a・b）
21	不整円形	160×149・93	略円形	159×156	－	SK21→SK22	フラスコ状土坑。	縄文（大木8a・b）
22	（円形）	276×〈197〉・29	（円形）	207×〈167〉	－	SK21→SK22	上部に大型礫５点出土。東側が攪乱のため削平されている。	古代以降
23	楕円形	159×139・72	円形	145×142	－	SK23→SI1	フラスコ状土坑。底面直上に配石あり（20～30㎝の川原石9個）。	縄文（大木8a・b）
24	楕円形	111×89・47	楕円形	116×83	－		フラスコ状土坑。	縄文（大木8a・b）
25	（楕円形）	168×〈131〉・77	不整楕円形	151×125	－		東側の上端が攪乱で削平されている。フラスコ状土坑。	縄文（大木8a・b）
26	円形	108×100・27	円形	92×89	－	SK26→SK13		

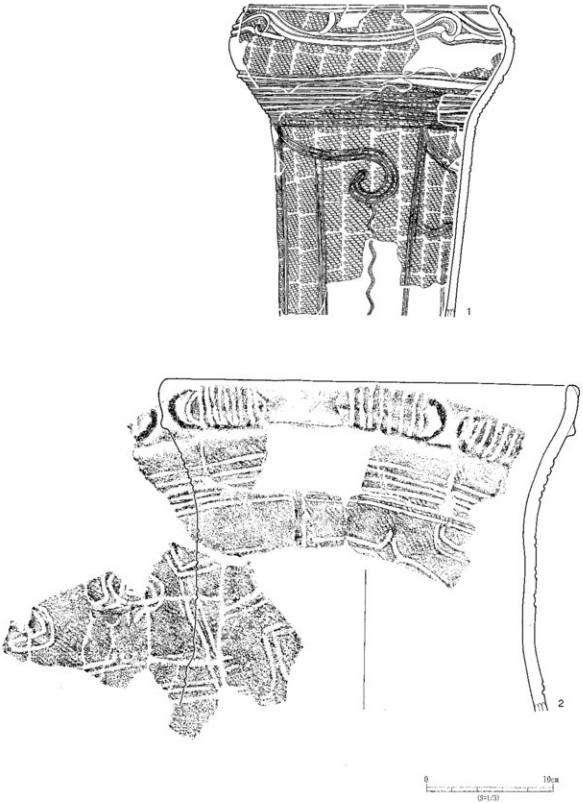


No.	登録番号	遺構名称	器形・部位	文様等	備　考	写真図版
1	A-1	SK 1	ミニチュア・胴部	胴端部内側。	輪積痕顕著。	8-1
2	A-2	SK 1	深鉢・胴部	横位平行沈線、渦巻文、縄文L R横位施文。	–	8-2
3	A-3	SK 4	深鉢・胴部	隆線文＋沈線文、横位爪形文区画、縄文R L横位施文。	–	8-3
4	A-4	SK 4	小型深鉢・胴部	3条1組横位沈線文、縄文L R横位施文。	–	8-4
5	A-5	SK 5	深鉢・胴部上端	口唇部欠損、隆線文＋沈線文、横位文様区画、縄文R L斜位施文。	–	8-5
6	A-6	SK 9	小型深鉢・胴部	横位平行沈線文。	歪減激しい。	8-6
7	A-7	SK10	深鉢・胴部	縦位板状押縄文、縄文L R横位施文。	–	8-7
8	A-8	SK11	深鉢・胴部	縦位隆線文＋沈線文、縄文L R横位施文。	9と同一個体。表裏面剥落激しい。	8-8
9	A-9	SK11	深鉢・胴部	縄文L R縦位施文。	8と同一個体。	8-9
10	A-10	SK12	深鉢・胴部	2条1組隆線文＋沈線文、縦位文様区画。	歪減激しい。	8-10
11	A-11	SK13	深鉢・胴部	隆線文、横位渦巻文、縄文R L縦位施文。	剥落激しい。	8-11
12	A-12	SK14	小型深鉢・口縁部	隆線文＋沈線文、横位渦巻文様区画、縄文L R横位施文。	器面剥落。	8-12
13	A-13	SK15	深鉢・頸部～胴部	頸部：2条1組隆線文＋沈線文、胴部：2条1組隆線文＋沈線文、Y字状縦位文様区画、区画内渦巻文、縄文R L縦位施文。	14と同一個体。歪減激しい。口縁の隆線文剥落。	8-13
14	A-14	SK15	深鉢・胴部	隆線文＋沈線文、縄文L R縦位施文。	13と同一個体。	8-14
15	A-15	SK15	深鉢・胴部	2条1組横位隆線文＋沈線文、横位爪形文区画、縄文R L縦位施文。	16と同一個体。歪減激しい。	8-15
16	A-16	SK15	深鉢・胴部	隆線文＋沈線文、縄文L R縦位施文。	15と同一個体。	8-16
17	A-17	SK15	深鉢・胴部	隆線文＋沈線文、横位・縦位区画文、縄文L R縦位施文。	歪減激しい。	8-17
18	A-18	SK15	深鉢・胴部	2条1組縦位隆線文＋沈線文、縦位区画文、結束文、縄文R L縦位施文。	–	8-18
19	A-19	SK16	深鉢・胴部	3条1組隆線文（沈線文、渦巻文、縄文L R斜位施文。	器面剥落。	8-19
20	A-20	SK16	深鉢・口縁部	隆線文＋沈線文、渦巻文。	地文縄文剥離。	8-20

第8図　土坑出土遺物（1）

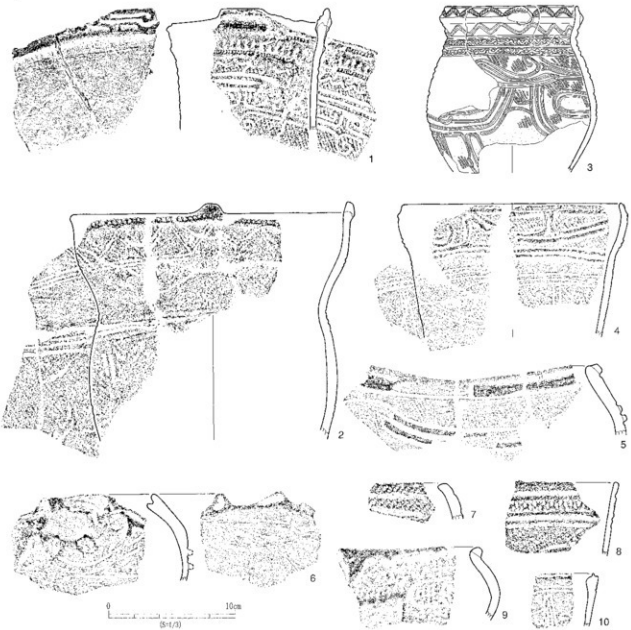
No.	登録番号	遺構名称	器形・部位	文様等	備　考	写真図版
1	A-21	SK16	深鉢・口縁部～胴部	波状口縁、口縁部文様帯狭い、波頂部に渦巻懸垂（中空）把手、LR帯部に沿って沈線による渦文。	2と同一個体。	8-21
2	A-22	SK16	深鉢・口縁部～胴部	沈線文、縄文RL横位施文。	1と同一個体。	8-22
3	A-23	SK17	深鉢・胴部	隆線文縦位文様区画、区画内3条一組隆線文＋沈線文。	器面剥落激しい。	8-23
4	A-24	SK18	小型深鉢・口縁部	隆線文＋沈線文、横位垂下状連弧文様沈線、縄文LR斜位施文。	–	8-24
5	P-1	SK19	土偶・脚部	扁平で大形、円孔1穴、左右対称に下方より穿つ。	–	8-25
6	A-25	SK19	小型深鉢・LI縁部	小波状口縁、隆線文、内面LI縁部条文、外面横位刻み目、隆線文間に縦位縄文LR原体転倒。	磨滅激しい。	8-26
7	A-26	SK19	深鉢・口縁部～胴部	口縁部：小波状口縁、波頂部に幅広鋭急状隆線文、複S字状、隆線文上に沈線。胴部：3条1組沈線、垂線的な懸線文、縄文RLLRLR斜位施文。	器面剥落。	8-27
8	A-27	SK19	深鉢・口縁部	口縁部外反、口与部にペン先状の刻み目、縄文LR条体土器圧痕状文。	磨滅激しい。	8-28
9	A-28	SK19	深鉢・口縁部～胴部	LI縁部：口縁部幅狭い、渦巻懸垂把手、隆線文＋押引刻み文。胴部：3条1組集合沈線による山形あるいは綾線状。	–	8-29
10	A-29	SK19	深鉢・口縁部～胴部	口縁部：口縁部幅狭い、指り込むLI縁、口縁帯に沿って押引状の刻み。胴部：3条1組沈線による山形沈線表状文。	器面剥落。	8-30
11	A-30	SK19	深鉢・口縁部	隆線文、横位文様区画、渦巻文、縄文LR縦位施文。	–	8-31
12	A-31	SK19	深鉢・口縁部	隆線文、横位文様区画、渦巻文、縄文LR縦位施文。	–	8-32
13	A-32	SK19	小型深鉢・口縁部	隆線文＋沈線文、横位文様区画、立体的な小突起状渦巻文、縄文RL縦位施文。	–	8-33
14	A-33	SK19	小型深鉢・口縁部	隆線文＋沈線文、横位区画文、不明縄文。	磨滅激しい。	8-34
15	A-34	SK19	小型深鉢・LI縁部	隆線文＋沈線文、横位区画文、渦巻・刺文文、縄文LR横位施文。	隆線文部分的剥落。	8-35

第９図　土坑出土遺物（２）



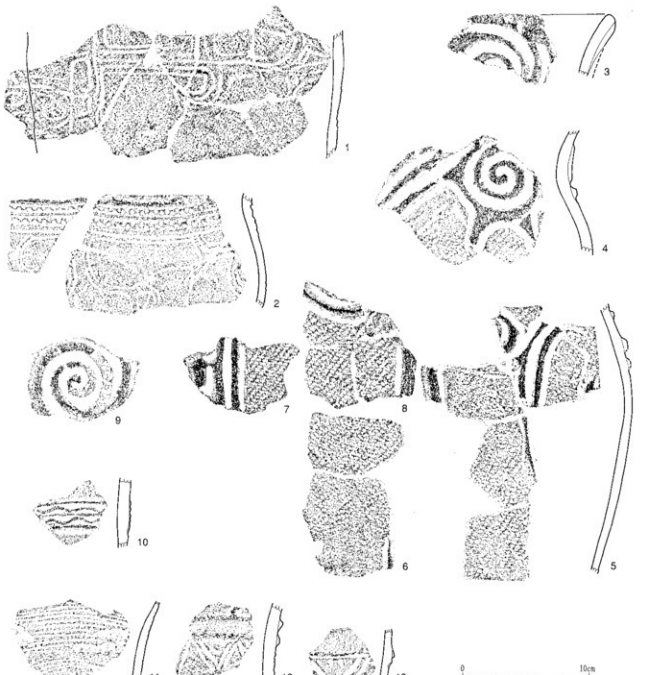
No.	登録番号	遺構名称	器形・部位	文様等	備　考	写真図版
1	A-35	SK19	深鉢・口縁部～胴部下半	口縁部：隆線文＋沈線文、横位連結渦巻文。頸部：横位平行沈線文10条。胴部：縦位区画、最開渦巻沈線文、縄文LR縦位施文。	－	9-1
2	A-36	SK19	深鉢・口縁部～胴部中位	口縁部：隆線文、横位楕円区画文＋区画内に縦位の縄文LR原体圧痕。頸部：横位平行沈線6条。胴部：沈線文連結直折渦巻文、縄文LR縦位施文。	－	9-2

第10図　土坑出土遺物（3）



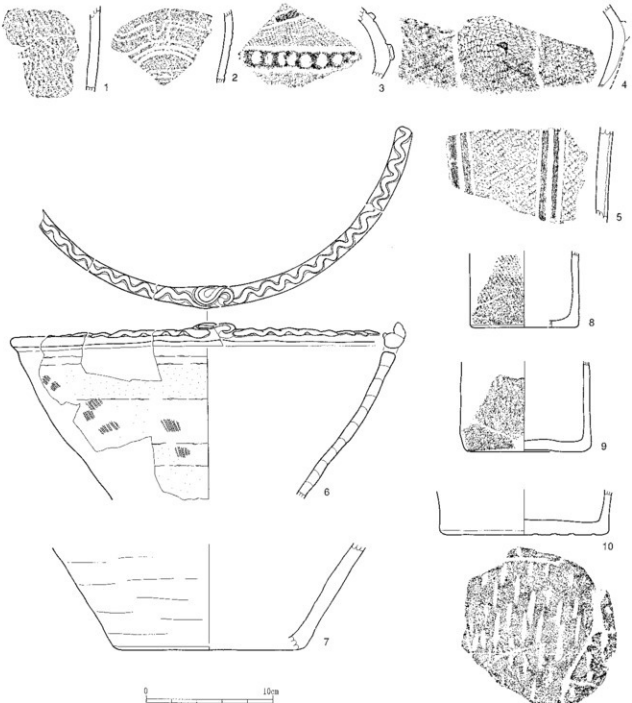
No.	登録番号	遺構名称	器形・部位	文様等	備　考	写真図版
1	A-37	SK19	小型深鉢・口縁部～胴部下半	口縁部：小波状（適宜状況を小突起）口縁。突起内面隆線文横位施巻文。横位隆線文上縁方形刻み。隆線文間に縦位の縄文L R原体圧痕。器面：横位又は縦位に横位波状状施。胴部：横位隆線文＋沈線文。器面文：縄文L R縦位施文。	剥落激しい。	8-36
2	A-38	SK19	深鉢・口縁部～胴部中位	口縁部：口唇部に小突起。3条1組横位沈線。区画内3条1組沈線による鋸歯状文。頸部：無文。胴部：上部4条1組横位沈線。2条1組縦位沈線。縦位文様区画。縄文L R縦位施文。	磨滅激しい。	9-3
3	A-39	SK19	小型深鉢、口縁部～胴部下半	口縁部：櫛描い。口縁部中位で内屈。隆線文横位施巻文区画。「段相沈線＋横位山形波状文。頸部：横位平行沈線。沈線間交互刺突による菊花（渦）状文。胴部：変線による格子状施巻文。以下縦位基調の施巻の沈線による文様構成。縄文L R縦位施文（口縁部～胴部中位）。	突起剥落。	9-4
4	A-40	SK19	小型深鉢・口縁部～胴部中位	口縁部：2条1組横位平行沈線＋沈線文。横位文様区画。頸部：無文。胴部：2条1組縦位平行沈線による縦位文様区画。区画内2条1組沈線文。楕円状文。縄文L R縦位施文。	–	9-5
5	A-42	SK19	深鉢・口縁部	隆線文＋沈線文。横位S字状施巻区画文。隆線文部分的剥落。縄文L R斜位施文。	磨滅激しい。	9-6
6	A-43	SK19	深鉢・口縁部	波状口縁。小突起。突起文＋沈線文。横位渦巻文区画。地文縄文L R縦位～斜位施文。	焼成脆弱。隆線文入部分剥落。	9-7
7	A-44	SK19	深鉢・口縁部	沈線。横位区画文。縄文L R横位施文。	–	9-8
8	A-45	SK19	深鉢・胴部	隆線文＋沈線文。隆線文間交互刺突。渦（繭玉）状文。縄文小解明。	磨滅激しい。	9-9
9	A-46	SK19	深鉢・口縁部	隆線文＋沈線文。渦巻文。横位区画文。縄文R L斜位施文。	磨滅激しい。	9-10
10	A-47	SK19	ミニチュア深鉢・口縁部	受口状肥厚口縁。口縁直下2条1組平行沈線。渦巻文。	–	9-11

第11図　土坑出土遺物（4）



No.	登録番号	遺構名称	器形・部位	文様等	備　考	写真図版
1	A-48	SK19	深鉢・胴部	2条1組沈線、横位S字状曲巻文基調の文様区画構成。縄文LR横位施文。	磨滅激しい。	9-12
2	A-49	SK19	深鉢・頸部～胴部	頸部：3条1組横位沈線文。沈線文間に突瘤文。胴部：平行沈線によるクランク状曲巻文。縄文LR横位施文。	–	10-1
3	A-50	SK19	深鉢・口縁部	隆線文＋沈線文、渦巻文。	4～9と同一個体。	10-6
4	A-51	SK19	深鉢～胴部	隆線文＋沈線文、刺突状渦巻文、横位～斜位の文様区画、縄文RL横位施文。	3と同一個体。上部欠損。	10-7
5	A-52	SK19	深鉢・胴部	隆線文＋沈線文、渦巻文、横位～斜位文様区画、縄文RL横位施文。	3と同一個体。隆線文部分的に剥落。	10-8
6	A-53	SK19	深鉢・胴部	隆線文＋沈線文、横位文様区画、縄文RL横位施文。	3と同一個体。	10-9
7	A-54	SK19	深鉢・胴部	隆線文＋沈線文、渦巻文、横位文様区画、縄文RL横位施文。	3と同一個体。	10-10
8	A-55	SK19	深鉢・胴部	隆線文＋沈線文、渦巻文。	3と同一個体。	10-12
9	A-56	SK19	深鉢・胴部	隆線文、渦巻文。	3と同一個体。上部欠損。	10-11
10	A-57	SK19	深鉢・胴部	横位隆線文＋沈線文、隆線文間虫喰状。	–	10-2
11	A-58	SK19	深鉢・胴部	横位平行集合沈線、縄文LR横位施文。	–	10-3
12	A-59	SK19	深鉢・胴部	口縁部：横位隆線文、胴部：2条1組平行集合沈線、斜面状文、縄文LR横位施文。	–	10-4
13	A-60	SK19	深鉢・胴部	横位隆線文、沈線文、結節状文、刺突文。	–	10-5

第12図　土坑出土遺物（5）

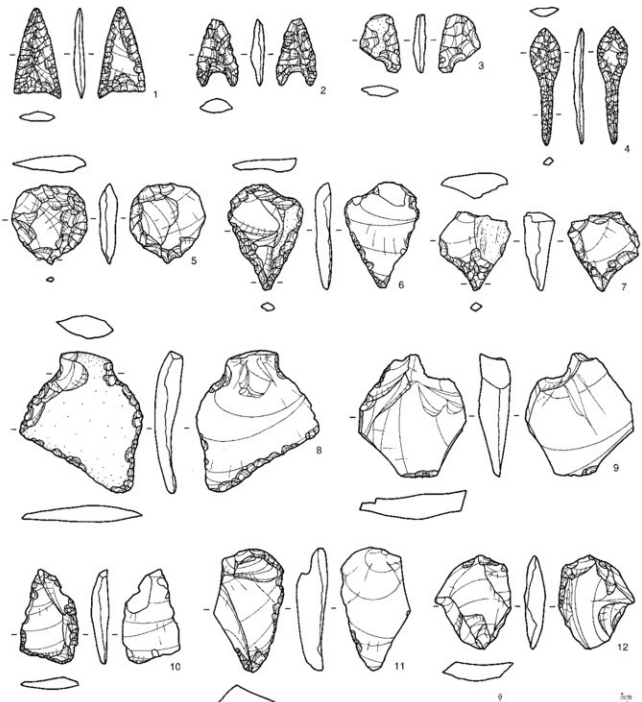


No	登録番号	遺構名称	器形・部位	文様等	備　考	写真図版
1	A-61	SK19	深鉢・胴部	沈線文、渦巻文。縄文LR斜位施文。	–	–
2	A-62	SK19	深鉢・胴部	2条1組沈線、渦巻文、沈線間交互刺突による側面(波)状文、縄文LR斜位施文。		10-13
3	A-63	SK19	深鉢・口縁部	隆線文＋沈線文。横位文様区画、渦巻文、下端横位隆線文上刻み目、縄文LR斜～縦位施文。	上部欠損。	10-14
4	A-64	SK19	深鉢・口縁部下半	縄文LR縦・横位施文。	隆線文剥落。	–
5	A-65	SK19	深鉢・胴部	隆線文＋沈線文、縦位区画、縄文RL縦位施文。	–	–
6	A-66	SK19	浅鉢・口縁部～胴部下半	S字状小突起、口唇部波状隆線文、口縁部折り返し肥厚、口縁部直下補修孔1。	橋積痕顕著。	10-17
7	A-67	SK19	浅鉢・胴部下半	横位～斜位の容量調整。	–	–
8	A-68	SK19	深鉢・胴部下半～底部	縄文LR縦位施文。	–	–
9	A-69	SK19	深鉢・胴部下半～底部	縄文LR斜位施文？	磨滅激しい。	–
10	A-70	SK19	深鉢・底部	底部網代痕。	–	–

第13図　土坑出土遺物（6）

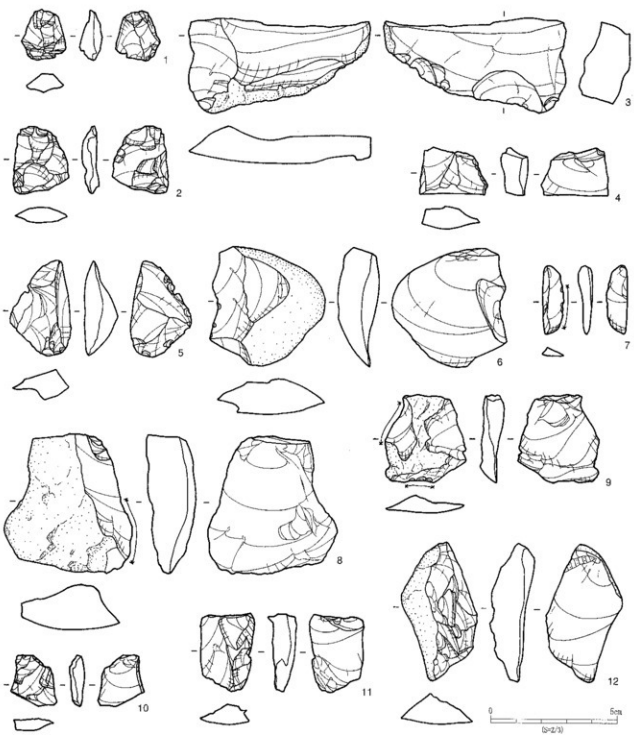
No.	登録番号	遺構名称	器形・部位	文様等	備　考	写真図版
1	A-71	SK19	浅鉢・胴部～底部	比較的大形、上端部内屈、横位～斜位開整痕跡表。	–	–
2	A-72	SK19	深鉢・胴部下半～底部	横位～斜位器面開整、底部端代痕。縄文LR縦位施文。	–	–
3	A-73	SK20	深鉢・口縁部	隆線文、渦巻文、横位文様区画。	隆線文部分的に剥落。	–
4	A-74	SK20	深鉢・胴部	2～3条1組沈線、縦・横位区画、区画内渦巻文、縄文LR縦位施文。	–	10-15
5	A-75	SK20	深鉢・胴部	2条1組隆線文＋沈線文、横位・縦位S字状渦巻文、縄文LR縦位施文。	6と同一個体。器面剥落激しい。	10-16
6	A-76	SK20	深鉢・胴部	隆線文＋沈線文、渦紋渦巻文。	5と同一個体。	–
7	A-77	SK21	深鉢・胴部	2～4条1組平行沈線文。	器厚極薄手。	10-18
8	A-78	SK22	深鉢・胴部	2条1組隆線文＋沈線文、縦位文様区画、縄文RL縦位施文。	–	10-19
9	A-79	SK24	深鉢・頸部～胴部上半	頸部：2条1組横位隆線文＋沈線文、隆線文間波状隆線文。胴部：沈線文、横位縦紋状文。	–	10-20
10	A-80	SK24	小型深鉢・口縁部～胴部上半	2条1組隆線文＋沈線文、横S字状文様区画、上部渦巻小交絡状。頸部：3条1組横位平行沈線。縄文RL横位施文。	–	10-21
11	A-81	SK25	小型深鉢・口縁部	口縁部：隆線文＋沈線文、横S字状文様区画、縄文RL横位施文。頸部：3条1組横位平行沈線。	–	10-22
12	P-2	SK19	土製円盤	胴部破片利用（小型土器底部の可能性あり）。	重さ19.99g。	10-23

第14図　土坑出土遺物（7）



No.	登録番号	遺構名称	種　類	石　質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備　考	写真図版
1	Ka-a-1	SK 4	石鏃	頁岩	(35.3)	(18.2)	4.0	(1.8)	左脚部欠損。	12-1
2	Ka-a-2	SK 5	石鏃	珪質頁岩	(26.2)	15.9	5.2	(1.6)	先端部欠損。	12-2
3	Ka-a-3	SK 5	石鏃	流紋岩	(22.8)	(16.6)	4.4	(0.9)	先端・左脚部欠損。	12-3
4	Ka-b-1	SK19	石錐	珪質頁岩	45.8	11.9	3.6	1.2	–	12-7
5	Ka-b-2	SK18	石錐	流紋岩	31.1	29.2	6.6	5.3	–	12-8
6	Ka-b-3	SK19	石錐	頁岩	41.3	29.2	5.4	6.7	–	12-9
7	Ka-b-4	SK20	石錐	珪質頁岩	31.4	28.8	11.9	8.0	–	12-10
8	Ka-d-1	SK20	石匙	頁岩	53.5	47.3	9.4	20.9	縦型。	12-12
9	Ka-e-1	SK19	スクレイパー	流紋岩	(48.2)	42.5	12.3	(18.9)	刃部一部欠損。	12-13
10	Ka-e-2	SK 1	スクレイパー	珪質頁岩	36.5	22.2	6.3	4.3	一部欠損。	12-14
11	Ka-e-3	SK19	スクレイパー	古銅	48.2	27.0	11.5	12.1	–	12-15
12	Ka-f-1	SK19	クサビ形石器	メノウ	36.5	29.6	8.1	7.8	–	12-17

第15図　土坑出土遺物（8）



（残存）

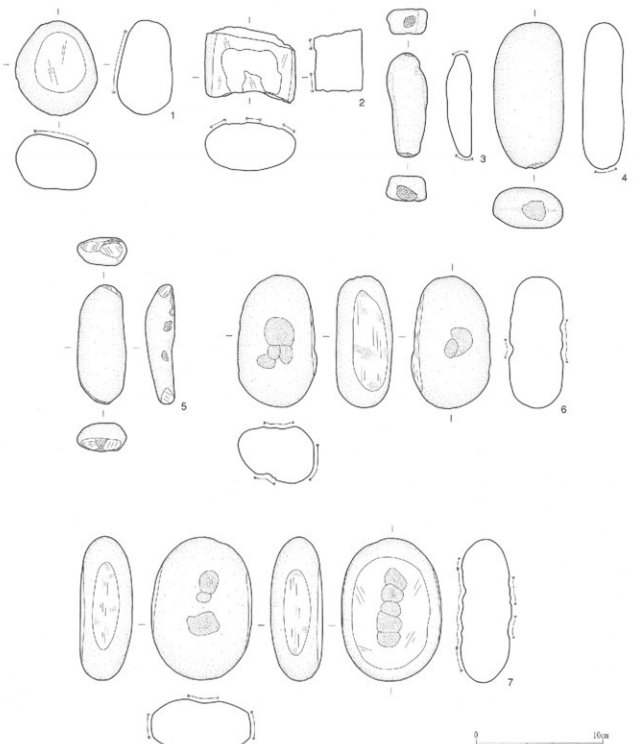
No.	登録番号	遺構名称	種　別	石　質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備　考	写真図版
1	Ka-f-2	SK19	クサビ形石器	緑石英	19.5	17.5	6.4	2.1	－	12-18
2	Ka-f-3	SK19	クサビ形石器	頁岩	25.7	22.8	5.9	3.5	－	12-19
3	Ka-h-1	SK11	二次加工のある剥片	流紋岩	(35.8)	70.8	19.2	(41.6)	上半部欠損。	12-21
4	Ka-h-2	SK19	二次加工のある剥片	流紋岩	(19.0)	26.3	10.4	(4.7)	下半欠損。	12-22
5	Ka-h-3	SK18	二次加工のある剥片	黄岩	36.9	23.7	11.4	7.6	一部欠損。	12-23
6	Ka-h-4	SK19	二次加工のある剥片	頁岩	47.0	48.2	14.8	30.5	－	12-24
7	Ka-i-1	SK13	微細剥離痕のある剥片	頁岩	26.9	8.5	5.8	0.9	－	12-26
8	Ka-i-2	SK 5	微細剥離痕のある剥片	流紋岩	54.3	49.8	19.2	39.7	－	12-27
9	Ka-i-3	SK19	微細剥離痕のある剥片	メノウ	34.3	32.0	7.4	8.0	－	12-28
10	Ka-l-1	SK16	剥片	硅質真岩	(19.5)	18.0	4.6	(1.9)	端部欠損。	－
11	Ka-l-2	SK19	剥片	メノウ	30.5	21.0	11.7	6.0	－	13-8
12	Ka-l-3	SK19	剥片	頁岩	31.6	27.7	14.4	17.5	－	13-1

第16図　土坑出土遺物（9）

（残存）

No.	登録番号	遺構名称	種　類	石　質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備　考	写真図版
1	Ka-14	SK19	剥片	頁岩	40.4	20.0	7.7	6.2	–	13-2
2	Ka-13	SK19	剥片	流紋岩	(36.2)	32.0	7.9	(4.5)	打面欠損。	13-3
3	Ka-16	SK19	剥片	頁岩	(27.7)	(24.9)	3.2	(1.6)	端部欠損。	13-9
4	Ka-17	SK19	剥片	頁岩	25.8	37.0	8.4	6.4	–	13-10
5	Ka-18	SK19	剥片	安山岩	(45.4)	44.8	13.9	(19.5)	打面欠損。	13-4
6	Ka-19	SK19	剥片	安山岩	47.5	35.2	12.6	18.5	–	13-5
7	Ka-110	SK20	剥片	頁岩	27.5	31.5	7.6	5.5	–	13-11
8	Ka-111	SK19	剥片	珪質頁岩	24.9	19.3	6.2	2.2	–	13-12
9	Ka-m-1	SK19	石核	珪質頁岩	54.2	29.4	26.7	47.6	–	–

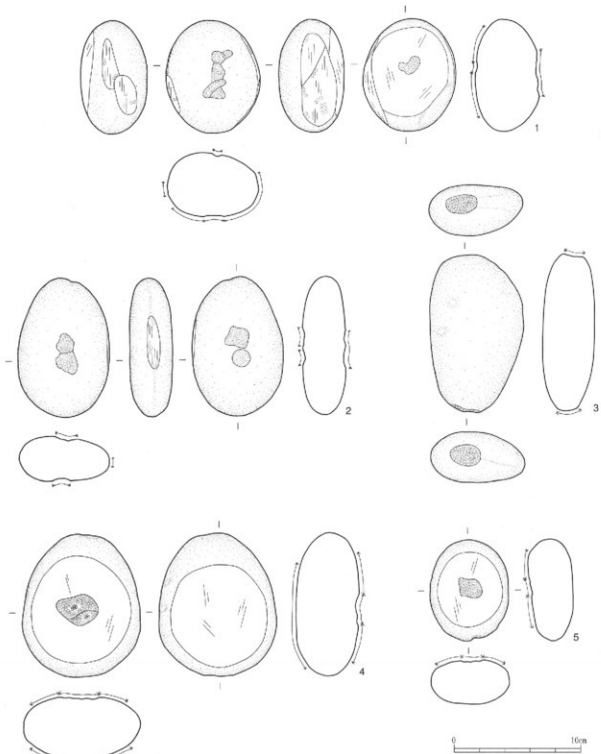
第17図　土坑出土遺物（10）



（残存）

No.	登録番号	遺構名称	種　類	石　質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備　考	写真図版
1	Kc-s1	SK 5	礫石器	花崗岩	75.0	64.5	44.5	298.0	磨1。	13-15
2	Kc-s2	SK19	礫石器	安山岩	(61.0)	71.0	39.5	(270.0)	磨1。上下端欠損。	13-16
3	Kc-s1	SK19	礫石器	頁岩	82.0	32.0	20.5	76.0	敲2(上下)。	13-17
4	Kc-s2	SK19	礫石器	安山岩	115.2	55.0	31.7	317.0	敲1(下)。	13-18
5	Kc-s1	SK19	礫石器	砂岩	95.0	39.0	22.0	120.0	磨4(上下)、敲6(上下縁)。	13-19
6	Kc-d1	SK19	礫石器	安山岩	105.3	62.6	45.0	373.0	磨1(縁)、凹1+2。	13-20
7	Kc-d2	SK19	礫石器	安山岩	114.0	80.0	40.5	573.0	磨3(縁2)、凹3+5。	13-21

第18図　土坑出土遺物（11）



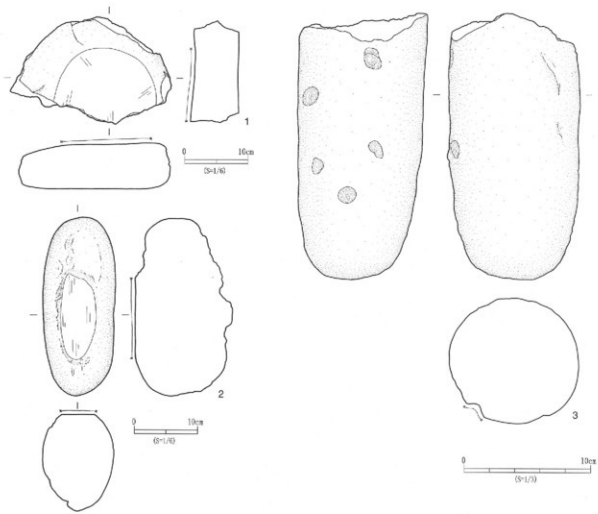
No.	登録番号	遺構名称	種　類	石　質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備　考	写真図版
1	Kc-d-3	SK19	礫石器	安山岩	90.0	74.0	51.5	446.0	敲5(側4)、凹5＋1。	13-22
2	Kc-d-4	SK19	礫石器	安山岩	110.6	72.2	34.5	352.0	敲1(側)、凹2＋2。	13-23
3	Kc-c-3	SK22	礫石器	ホルンフェルス	125.0	74.5	40.0	546.0	敲2(上下)、表面に褐色部有り。	13-24
4	Kc-d-5	SK27	礫石器	ホルンフェルス	114.0	94.0	49.0	695.0	敲2、凹2。	13-25
5	Kc-d-6	SK24	礫石器	ホルンフェルス	80.5	62.0	34.5	220.0	敲1、凹1。	13-27

第19図　土坑出土遺物（12）

（残存）

No.	登録番号	遺構名称	種　類	石　質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備　考	写真図版
1	Kc-b-1	SK25	磨石器	溶岩	107.5	93.5	51.0	645.0	図1＋2。	13-26
2	Kd-a-1	SK19	石皿	安山岩	(204.2)	(117.8)	(85.8)	(2,256)0	図1。部分破片。	14-10
3	Kd-a-2	SK19	石皿	ホルンフェルス	(259.0)	(172.0)	(87.0)	(3,765)0	図1。部分破片。表面黒色変化有り。	14-14
4	Kd-a-3	SK23	石皿	安山岩	332.0	250.0	71.0	8,995.0	図1。	14-12

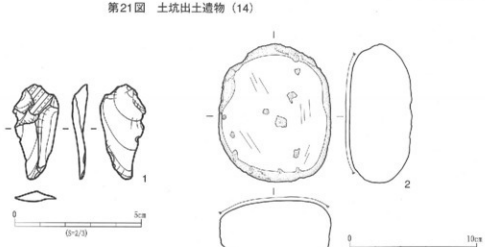
第20図　土坑出土遺物（13）



(残存)

No.	登録番号	遺構名称	種　類	石　質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備　考	写真図版
1	Kd-a-4	SK23	石皿	安山岩	(160.7)	(247.7)	(74.6)	(4,200.0	脚1、下半欠損。	14-11
2	Kd-c-1	SK23	凹石	安山岩	282.0	113.8	134.4	7,350.0	脚1。	14-13
3	Kd-d-1	SK23	台石	雑堆岩	(211.3)	105.3	101.2	(1,467.0	脚上下欠損。風化・発泡？	14-18

第21図　土坑出土遺物（14）



No.	登録番号	遺構名称	種　類	石　質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備　考	写真図版
1	Ka-f-12	ピット4	剥片	珪質頁岩	37.2	17.9	4.1	1.7	一部欠損。	13-7
2	Kc-a-3	ピット7	磨石類	安山岩	110.0	89.4	40.0	633.0	脚1、赤色変化有り。	13-28

第22図　ピット出土遺物

2．ピット（第3図、第2表）

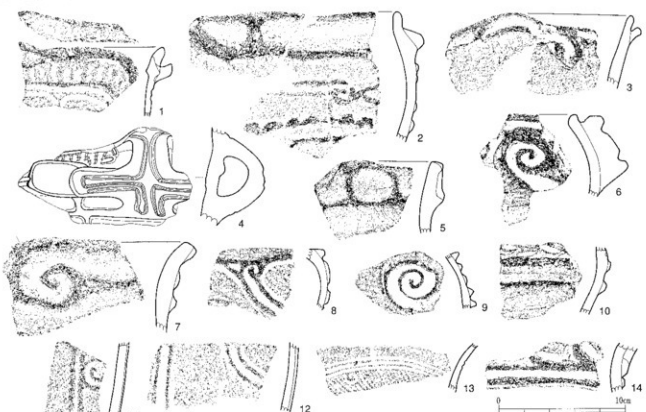
今回の調査では9個のピットが検出された。分布状態は調査区中央のD－17・18に5個、調査区北東部のB－15・16に4個である。これらのピットは規模、深さに類似性の見られるものもあるが、建物跡あるいは住居跡の柱穴等として組み合うものは認められなかった。ピットからの出土遺物は第22図に図示した石器だけであった。

第2表　ピット計測表

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9
規模(cm)	36×27	44×38	49×44	49×46	49×42	26×24	28×25	32×27	60×48
深さ(cm)	30	21	31	27	36	17	21	21	22

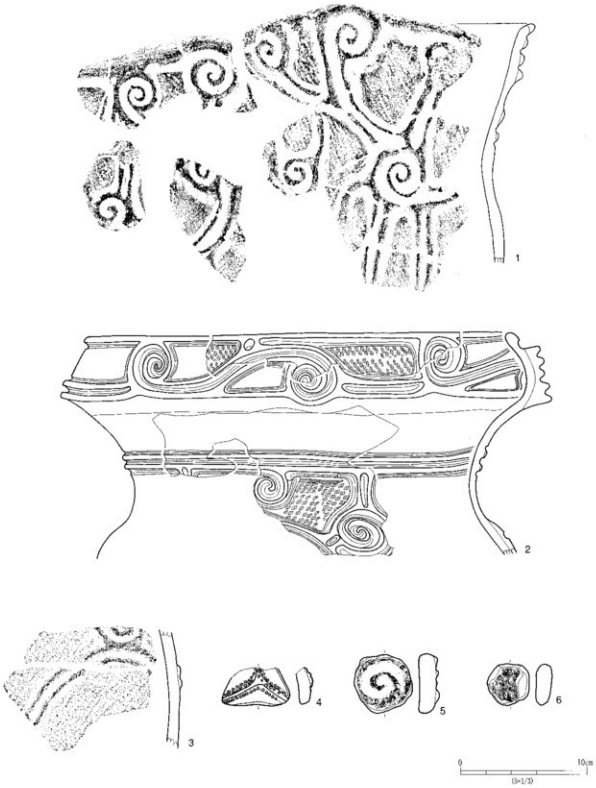
3．包含層出土遺物（第23～28図）

包含層からの遺物の出土は、前述のように調査区内の撹乱が著しいためにそれほど多いものではなかった。また、分布状態としても極端な集中部も認められないものであった。以下に主な遺物を図示する。また、撹乱及び古代以降の遺構から出土した縄文時代の遺物についてもここに掲載する。



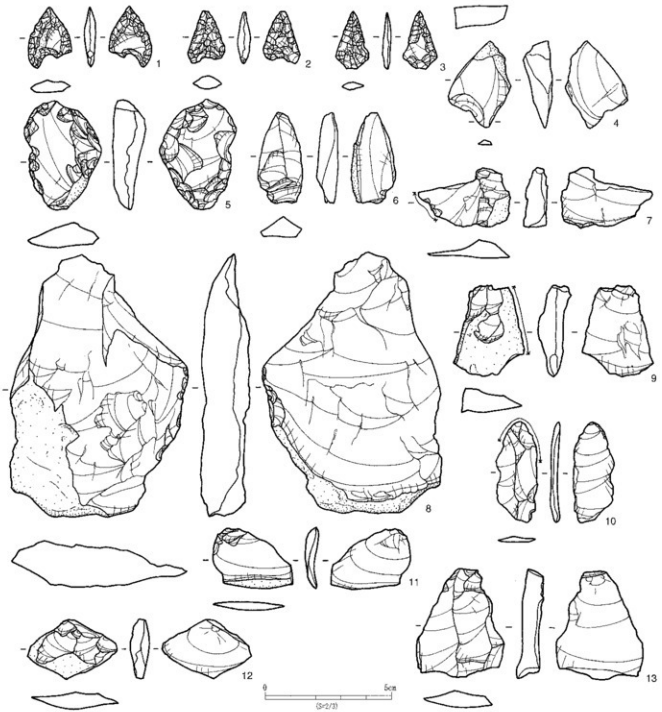
No	登録番号	遺構名称	器形・部位	文様等	備　考	写真図版
1	A-82	撹乱	深鉢・口縁部	渦巻隆線文、口縁部肥厚、隆線文間擬位縄文RL原体圧痕、沈線文。	磨滅激しい。	11-1
2	A-83	B13Gr.	深鉢・口縁部	平月状小突起、隆線文、横位渦巻文様区画、波状文、縄文LR擬位施文。	磨滅激しい。	11-2
3	A-84	撹乱	深鉢・口縁部	緩やかな波状口縁、隆線文＋沈線文。	波浪部の立体的な渦巻把手（破損）。	11-3
4	A-85	E20-21Gr.	深鉢・口縁部	小突橋状（十字状）把手＋沈線。縄文LR原体圧痕。	－	11-4
5	A-86	A～D13～16Gr.	深鉢・口縁部	小波状口縁、隆線文、楕円文。	－	11-5
6	A-87	撹乱	深鉢・口縁部	隆線文＋沈線文、横位渦巻文区画。	－	11-6
7	A-88	撹乱	深鉢・口縁部	隆線文＋沈線文、横位渦巻文。	－	11-7
8	A-89	撹乱	深鉢・口縁部	隆線文＋沈線文、横位渦巻文区画、口唇部欠損、縄文RL横位施文。	磨滅激しい。	11-8
9	A-90	撹乱	深鉢・口縁部	隆線文＋沈線文、渦巻文。	－	11-9
10	A-91	撹乱	深鉢・口縁部	隆線文擬位。	－	11-10
11	A-92	E21Gr.	深鉢・胴部	隆線文、渦巻文、地文縄文RL擬位施文。	－	11-11
12	A-93	撹乱	深鉢・胴部	2条1組隆線文＋沈線文、擬位文様区画、区画内渦巻文、縄文RL擬位施文？	磨滅激しい。	11-12
13	A-94	撹乱	深鉢・胴部～胴部	頸部：下端3条1組横位平行沈線、胴部：渦巻文、縄文LR斜位施文。	－	11-13
14	A-95	E21Gr.	深鉢・胴部	隆線文＋沈線文、横位渦巻文様区画、縄文RL擬位施文。	上部欠損。	11-14

第23図　包含層出土遺物（1）



No.	登録番号	遺構名称	器形・部位	文様等	備　考	写真図版
1	A-96	E21Gr.	深鉢・口縁部～胴部	波状口縁、隆線文＋沈線文、唐草（葉子）様渦巻文、縄文ＬＲ縦位施文。	－	11-15
2	A-97	E21Gr.	深鉢・口縁部～胴部上手	口縁部：隆線文＋沈線文、横位Ｓ字状渦巻文、区画内縄文ＲＬＲ横位施文。 屋部：無文帯。胴部：隆線文＋沈線文、連結曲流渦巻文、区画内縄文ＲＬＲ縦位施文。	－	11-16
3	A-98	複乱	深鉢・胴部	隆線文＋沈線文、渦巻文、縄文ＲＬ縦位施文。	磨滅激しい。	11-17
4	P-3	SD1	三角形土製品	一文状隆線文、隆線文上・脇円形刺突文列。	上端欠損。	11-18
5	P-4	A～D13～16Gr.	土製円盤	胴部破片利用、渦巻隆線文。	重さ32.85ｇ。	11-19
6	P-5	複乱	土製円盤	胴部破片利用。	磨滅顕著。重さ12.66ｇ。	11-20

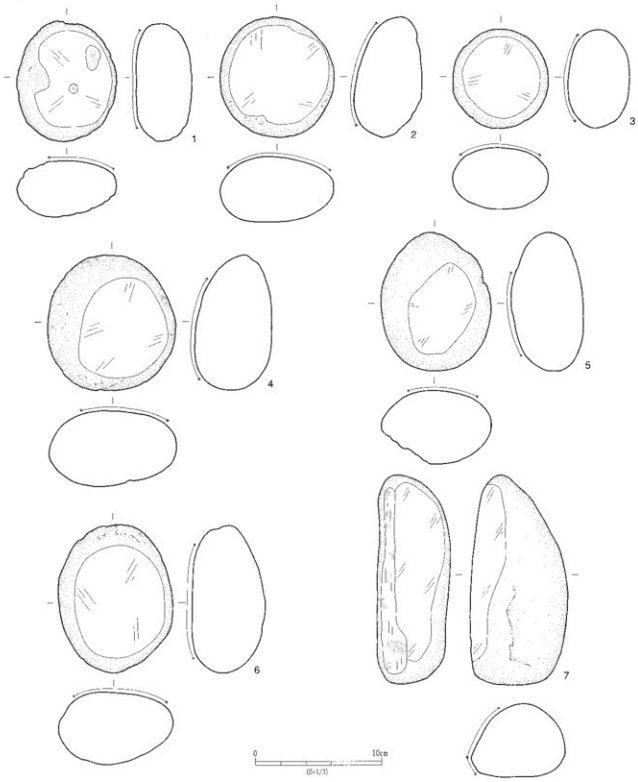
第24図　包含層出土遺物（２）



(残存)

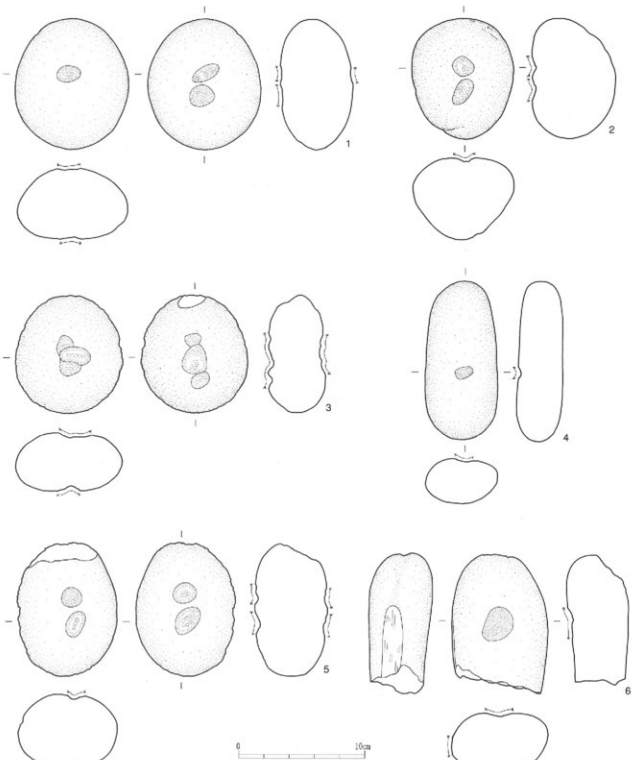
No	登録番号	遺構名称	種　類	石　質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備　考	写真図版
1	Ka-b-1	A~D 13~16 Gr.	石鏃	メノウ	(23.5)	16.8	4.3	(1.3)	右脚部欠損。	12-4
2	Ka-b-5	表採	石鏃	流紋岩	(19.4)	(14.4)	4.3	(0.8)	先端・右脚部欠損。	12-5
3	Ka-a-6	表採	石鏃	珪質頁岩	(22.4)	13.1	2.9	(0.7)	有茎石鏃。基部欠損。	12-6
4	Ka-b-5	SD1	石錐	珪質頁岩	33.9	25.6	10.1	7.0	−	12-11
5	Ka-e-4	攪乱	スクレイパー	珪質頁岩	43.0	30.0	12.5	13.7	−	12-16
6	Ka-f-4	A~D 12~16 Gr.	クサビ形石器	珪質頁岩	35.6	17.7	7.7	4.5	−	12-20
7	Ka-i-4	SD1	微細剥離痕のある剥片	珪質頁岩	(22.7)	(35.1)	(8.7)	(5.1)	上半部欠損。	12-29
8	Ka-i-3	E20・21 Gr.	微細剥離痕のある剥片	メノウ	35.3	27.4	11.2	8.0	基部一部欠損。	12-25
9	Ka-i-6	攪乱	微細剥離痕のある剥片	珪質頁岩	(39.1)	16.4	3.0	1.9	一部欠損。	12-30
10	Ka-i-13	SD5	剥片	珪質頁岩	27.4	(32.4)	3.5	(2.3)	縁部一部欠損。	12-31
11	Ka-b-5	攪乱	二次加工のある剥片	珪質頁岩	104.0	68.7	17.5	125.0	−	13-13
12	Ka-i-4	SD5	剥片	珪質頁岩	(23.4)	34.5	7.0	4.9	下部欠損。	13-14
13	Ka-i-15	攪乱	剥片	流紋岩	(42.2)	34.4	(9.1)	(9.9)	下部欠損。	13-6

第25図　包含層出土遺物（3）



No	登録番号	遺構名称	種　　組	石　　質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備　　考	写真図版
1	Kca-3	SD1	礫石器	溶岩	95.6	79.5	44.4	416.0	磨1。	13-29
2	Kca-4	表採	礫石器	ホルンフェルス	96.0	90.2	53.1	623.0	磨1。	13-30
3	Kca-5	風倒木	礫石器	ホルンフェルス	79.3	75.9	48.7	398.0	磨1。	13-31
4	Kca-6	撹乱	礫石器	安山岩	107.5	101.5	60.8	727.0	磨1。	13-32
5	Kca-7	SD5	礫石器	ホルンフェルス	110.0	83.7	57.7	669.0	磨1。	13-33
6	Kca-8	SD1	礫石器	安山岩	118.1	90.6	57.6	809.0	磨1。	13-34
7	Kca-9	表採	礫石器	安山岩	166.5	77.2	57.0	1,103.0	磨2(裏1)。	13-36

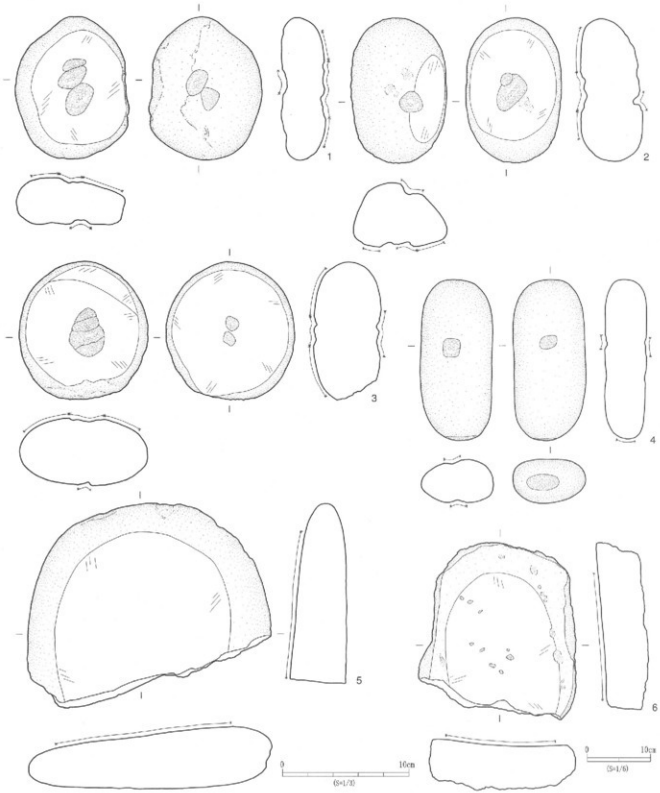
第26図　包含層出土遺物（4）



(残存)

No.	登録番号	遺構名称	種　類	石　質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備　考	写真図版
1	Kc-b-2	SD1	礫石器	安山岩	103.8	89.3	56.3	674.0	凹1・2。	13-35
2	Kc-b-3	表採	礫石器	安山岩	96.2	80.6	65.5	639.0	凹2。加熱によるスス状付着物有り。	14-1
3	Kc-b-4	表採	礫石器	凝灰岩	94.2	84.9	47.6	457.0	凹3・3。上端欠損。	14-2
4	Kc-b-5	表採	礫石器	ホルンフェルス	125.2	57.2	35.4	397.0	凹1。	14-5
5	Kc-b-6	SD6	礫石器	花崗岩	(106.2)	79.0	58.9	(674.0)	凹2・2。上端欠損。	14-3
6	Kc-c-7	T16-17 Gr.	礫石器	ホルンフェルス	(110.8)	76.5	48.9	(632.0)	敲1(後)、凹1。下端部欠損。	14-4

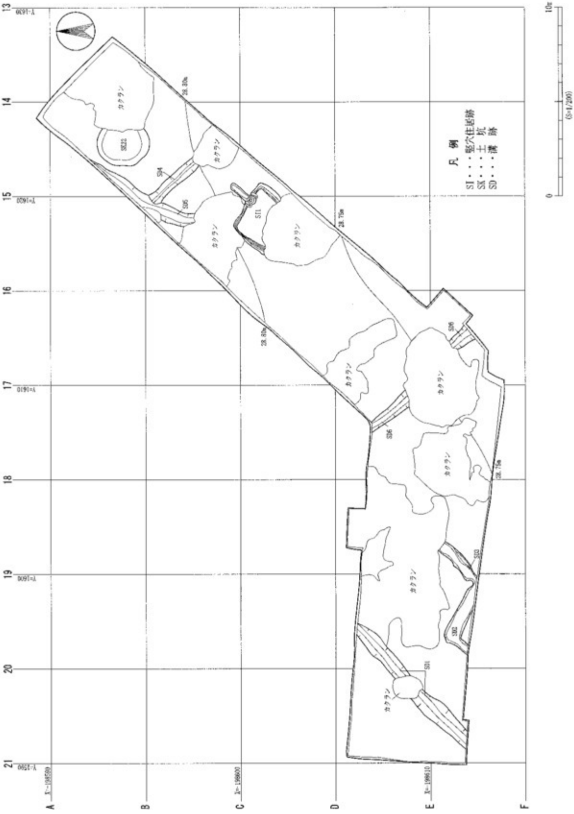
第27図　包含層出土遺物（5）



(残存)

No.	登録番号	遺構名称	種　類	石　質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備　考	写真図版
1	Kc-d-8	表採	礫石器	安山岩	113.3	88.7	37.4	461.0	磨1、凹3・2。	14-7
2	Kc-d-9	表採	礫石器	安山岩	114.9	75.7	50.7	522.0	磨2、凹1・2。	14-8
3	Kc-d-10	撹乱	礫石器	安山岩	109.3	101.8	58.1	747.0	磨1、凹4・2。	14-9
4	Kc-f-1	表採	礫石器	安山岩	127.5	57.7	34.6	390.0	凹1・1、敲(下)。	14-6
5	Kd-a-4	表採	石皿	安山岩	(162.8)	(194.2)	(50.9)	(1,812.0	磨1。下半欠損。	14-15
6	Kd-a-5	表採	石皿	安山岩	(281.2)	250.1	87.0	(8,1000	磨1。下端部欠損。	14-16

第28図　包含層出土遺物（6）



第29図 古代以降遺構配置図

第2節　古代以降

古代以降に属する遺構としては、竪穴住居跡1軒、土坑1基、溝跡が6条検出された。これらの遺構も撹乱によって削平された部分が大きいものであった（第29図）。

1．竪穴住居跡

S I 1竪穴住居跡（第30図、写真図版3）

〔位　置〕調査区中央やや北東寄りのB・C－15・16グリッドに検出された。

〔遺存状態〕北西側の一部と南側が削平されており、特に南側の撹乱は床面下にまで及ぶものであった。

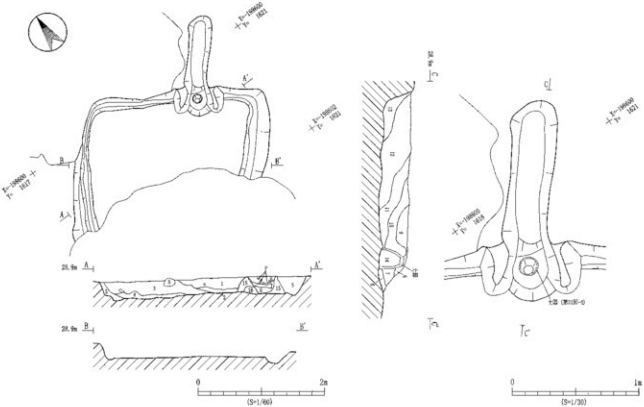
〔形状・規模〕平面の形状は方形を基調とするものと考えられ、主軸方向は北東壁に位置するカマドからN－40°－Eである。残存部の規模は主軸方向の西壁で2.15m、北壁で2.92m、壁高は北西側で25cm、南西壁は14cmである。壁は周溝から急角度で立ち上がるが、緩やかに立ち上がる部分も見られる。

〔堆積土〕褐色の砂質シルトを主体として4層に細分される。

〔床　面〕掘り方底面を直接床面としている。部分的に凹凸があり、西側へやや傾斜している。

〔床面施設〕床面には柱穴や貯蔵穴等の施設は認められないが、幅15～20cm、深さ5～10cmの周溝が巡る。周溝は遺存部分ではカマドを除いて全周し、北西面には段が付く部分もある。

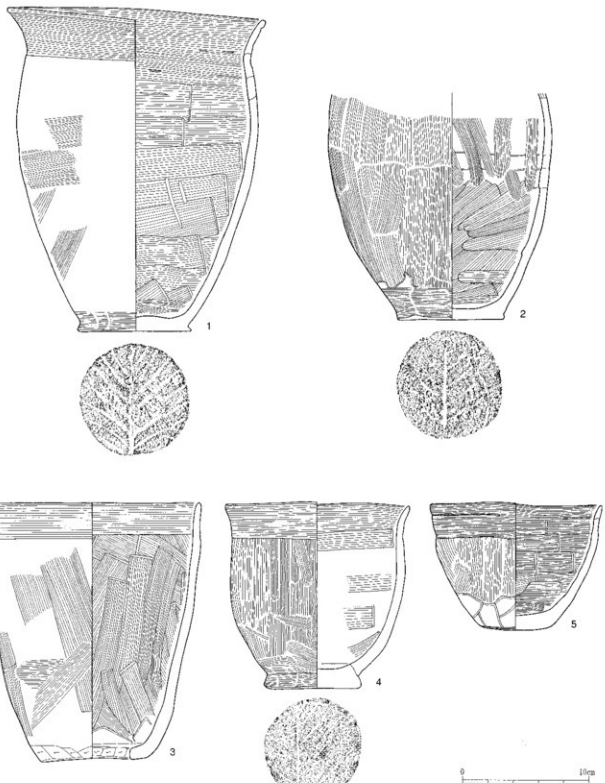
〔カマド〕北東壁の東寄りに付設され、両袖部と燃焼部、煙道部が検出された。規模は燃焼部から煙道の先端ま



遺構	層位	土　色	土　性	備　考
竪穴	1	10YR5/4 にぶい黄褐	砂質シルト	黄色シルト粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐	砂質シルト	黄色シルト粒少量含む。
	3	10YR4/4 褐	砂質シルト	黄色シルトブロック含む。
	4	10YR4/6 褐	砂質シルト	焼土粒微量含む。
周溝	5	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	黄色シルト粒少量含む。
	6	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	黄色シルト粒少量含む。
カマド	7	7.5YR4/6 褐	砂質シルト	黄色シルトブロック多量含む。
	8	10YR3/2 黒褐	砂質シルト	焼土粒少量含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　考
	9	10YR4/2 灰黄褐	砂質シルト	黄色シルトブロック少量含む。
	10	10YR4/4 褐	砂質シルト	焼土粒多量含む。
撹乱	11	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	黄色シルトブロック少量含む。
	12	10YR3/3 暗褐	砂質シルト	黄色シルト混砂多量含む。
	13	10YR3/2 黒褐	砂質シルト	黄色シルトブロック少量含む。
土坑	14	10YR3/2 黒褐	砂質シルト	黄色シルト粒少量含む。
カマド	15	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	黄色シルトブロック多量含む。
地	16	2.5Y3/3 にぶい黄褐	砂質シルト	黄色シルトブロック主体。

第30図　S I 1竪穴住居跡



No.	登録番号	器 種	口径×器高×底径(cm)	外 面	内 面	底 部	備 考	写真図版
1	C-1	土師器	甕	20.5×25.7×8.8	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ヘラナデ	木葉底	–	15-1
2	C-2	土師器	甕	–×(18)×8.3	ナデ	指ナデ・ヘラナデ	木葉底	–	15-2
3	C-3	土師器	甑	17×20.5×6.15	ヨコナデ・ヘラナデ	ヨコナデ・ヘラナデ	–	孔部の縁はヨコハラケズリ。	15-3
4	C-4	土師器	甕	14.5×14.8×7.75	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ヘラナデ	木葉底	カマドの支脚に転用。	15-4
5	C-5	土師器	鉢	13.6×10.1×5.6	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ヘラナデ	ヘラケズリ	–	15-5

第31図 ＳＩ１竪穴住居跡出土遺物

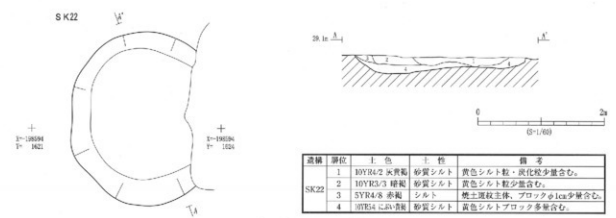
で160cm、両袖部最大幅は78cm、燃焼部幅は28cm、燃焼部奥行は26cmである。両袖部は黄色シルトブロックを主体とする用材で積まれている。燃焼部は浅い窪みになっており、中央には土師器の甕が支脚に転用されて逆位で設置されている。煙道部は幅35cm、長さ111cm、深さ20cm前後であり、先端部付近でやや急角度に立ち上がる。

〔出土遺物〕遺物はカマド付近と床面中央部付近から出土しており、上述のように支脚に転用された土師器もある。このうちの土師器甕3点、甑1点、鉢1点を図示した。

2．土　坑

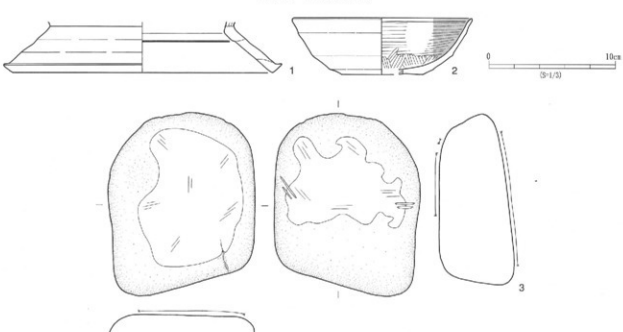
ＳＫ22土坑（第32図、写真図版６－４）

調査区北東のＡ－15グリッドに検出され、今回の調査で最も北側に検出された遺構である。遺構の東側の一部を



遺構	層位	土色	土性	備考
SK22	1	10YR4/2 灰黄褐	砂質シルト	黄色シルト粒・炭化粒少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐	砂質シルト	黄色シルト粒少量含む。
	3	5YR4/8 赤褐	シルト	焼土混粒土体。ブロックφ1cm少量含む。
	4	10YR4 にぶい黄褐	砂質シルト	黄色シルトブロック多量含む。

第32図　ＳＫ22土坑



№　登録番号	器　種	口径×器高×底径(cm)	外　面	内　面	底　部	備　考	写真図版
1　D-1	土師器　甑	－×4×20.6	ロクロナデ	ロクロナデ	－	－	－
2　D-2	土師器　坏	14×4.5×6.4	ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り	内面黒色処理。	15-6

№　登録番号	遺構名称	種　類	石　質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備　考	写真図版
3　Kd-c-2	SK22	礫石	安山岩	280.4	232.6	120.8	12,750.0	部2（＋礫破砕4本）、一部被熱変色。	14-17

第33図　ＳＫ22土坑出土遺物

撹乱により削平されている。残存部の規模は2.76×1.97mで、平面形は円形を基調とするものと考えられる。断面の形状は皿状を呈する。堆積土は黄褐色の砂質シルトを主体として4層に分けられ、部分的に焼土と炭化物を混入する。また、堆積土の上部には大形礫4点と砥石1点が検出された。壁高は29cmで、壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は平坦であるが南側に緩やかに傾斜している。遺物は土師器と石器・礫が出土し、土師器甑1点と土師器坏1点、砥石1点を図示した。

3．溝　跡

ＳＤ１溝跡（第34図、写真図版７－１）

Ｅ－21～Ｄ－20グリッドにかけて検出され、北側と南側はいずれも調査区外に更に延び、南側は第６次調査のＳＤ10溝跡へと連続する。遺構の中央部及び北側の上部が撹乱により削平されている。方向はＮ－43°－Ｅであり、確認部分の規模は長さ8.3m、幅80～110cm、深さ30～40cmである。堆積土は暗褐色の砂質シルトを主体とした４層に分けられる。壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は北東側に向かって緩やかに傾斜している。遺物は縄文土器と土師器及び石器が少量出土し、土製品１点と石器５点を図示した。

ＳＤ２溝跡（第34図、写真図版７－２）

Ｅ－20グリッドに検出され、調査区内で屈曲して両端は調査区南側へ延びる。方向は西側が北東方向へＮ－37°－Ｅで調査区内に入り、約１mで東南東方向Ｎ－118°－Ｅへ曲がって約３mで再び調査区外へ延びる。溝跡の東端でＳＤ３溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。検出部分の規模は長さ1.1＋2.9m、幅45～85cm、深さ約10cmである。堆積土は褐色の砂質シルトを主体とした２層に分けられる。断面形は皿状で、壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は細かな凹凸が見られるが、検出範囲では傾斜は認められない。遺物は縄文土器と土師器が少量出土した。

ＳＤ３溝跡（第34図、写真図版７－２）

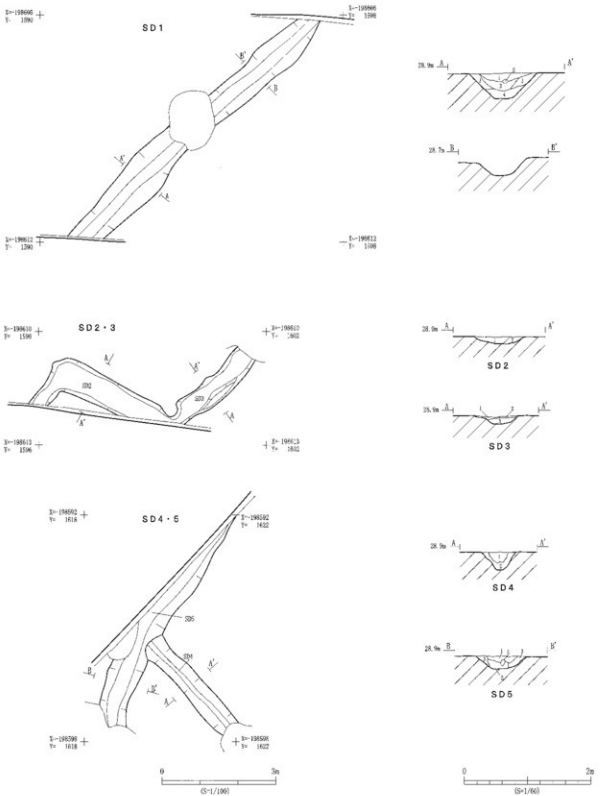
Ｅ－19・20グリッドに検出され、南側は調査区外に延び、北側は撹乱により削平されている。方向はＮ－44°－Ｅであり、ＳＤ１溝跡とほぼ並行する。溝跡の南西端でＳＤ２溝跡と重複するが新旧関係は不明であり、同一の溝である可能性も考えられる。検出部分の規模は長さ2.7m、幅35～70cm、深さ約10cmである。堆積土は褐色の砂質シルトを主体とした３層に分けられる。断面形は皿状で、壁は底面から緩やかに立ち上がり、段が付く部分もある。底面は細かな凹凸が見られるが、北東側に向かって緩やかに傾斜している。遺物は縄文土器と土師器が少量出土した。

ＳＤ４溝跡（第34図、写真図版７－３）

Ｂ－15・16グリッドに検出され、西側はＳＤ５溝跡、東側は撹乱により削平されている。方向はＮ－43°－Ｗである。溝跡の北西端でＳＤ５溝跡と重複するが、堆積土による新旧関係は認められなかった。検出部分の規模は長さ3.8m、幅53～64cm、深さ約30cmである。堆積土は灰黄褐色の砂質シルトを主体とした２層に分けられる。断面形はＶ字状で、壁は底面から急角度で立ち上がる。底面は南東側に向かって緩やかに傾斜している。遺物は縄文土器と土師器が少量出土し、土師器甕を１点図示した。

ＳＤ５溝跡（第34図、写真図版７－４）

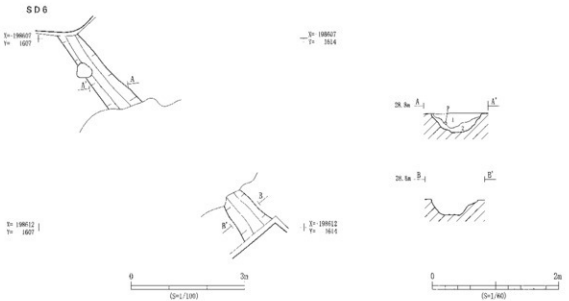
Ｂ－16～Ａ－15グリッドに検出され、北側は調査区外に延び、南側は撹乱により途切れている。方向はＮ－27°－Ｅであり、遺構のほぼ中央でＳＤ４溝跡と重複するが新旧関係は不明であり、同一の溝である可能性も考えられる。検出部分の規模は長さ6.1m、幅70～90cm、深さ約20cmである。堆積土は褐色の砂質シルトを主体とした３層に分けられる。断面形は皿状で、壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は南側に向かって緩やかに傾斜している。遺物は縄文土器と石器が出土し、石器３点を図示した。



遺構	層位	土色	土性	備考
SD1	1	10YR3/3 暗褐	砂質シルト	黄色シルト粒少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐	砂質シルト	1層類似。1層より色調明化。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	黄色シルトブロック多量含む。
	4	10YR3/2 黒褐	砂質シルト	黄色シルト粒少量含む。
SD2	1	10YR3/2 黒褐	砂質シルト	黄色シルトブロック少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐	砂質シルト	黄色シルト粒少量含む。
SD3	1	10YR3/4 暗褐	砂質シルト	黄色シルト粒少量含む。

遺構	層位	土色	土性	備考
SD3	2	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	黄色シルト粒多量含む。
	3	10YR5/6 黄褐	砂質シルト	黄色シルト粒主体含む。
SD4	1	10YR4/2 灰黄褐	砂質シルト	黄色シルト粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐	砂質シルト	黄色シルトブロック主体。
SD5	1	10YR3/3 暗褐	砂質シルト	黄色シルト粒微量含む。
	2	10YR2/3 黒褐	砂質シルト	黄色シルト粒微量含む。
	3	10YR3/3 にぶい黄褐	砂質シルト	黄色シルトブロック少量含む。

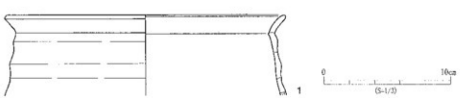
第34図　ＳＤ１～ＳＤ５溝跡



遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SD6	1	10YR3/3 暗褐	砂質シルト	黄色シルト粒少量含む。

遺構	層位	土　色	土　性	備　考
SD6	2	10YR3/4 暗褐	砂質シルト	黄色シルト粒少量含む。

第35図　ＳＤ６溝跡



No	登録番号	器　種	口径×器高×底径(cm)	外　面	内　面	底　部	備　考	写真図版
1	G-6	上製品　磨	22×6.4×－	ロクロナデ	ロクロナデ	－	－	15-7

第36図　ＳＤ４溝跡出土遺物

ＳＤ６溝跡（第35図、写真図版４－６）

Ｄ－18～Ｅ－17グリッドに検出され、中央部を大きく撹乱により削平されている。南北の両端とも調査区外に更に延び、南側は第６次調査のＳＤ６溝跡に連続する。方向はＮ－45°－Ｗであり、残存部の規模は長さ7.3m、幅48～75cm、深さ約30cmである。堆積土は暗褐色の砂質シルトを主体とした２層に分けられる。断面形はＵ字状で、壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は南東側に向かって緩やかに傾斜している。遺物は縄文土器と土師器及び石器が出土し、礫石器１点を図示した。

第Ⅵ章 ま と め

今回の調査は、平成17年と18年度にかけて行われた都市計画道路富沢山田線建設工事に伴う上野遺跡第６次・７次調査の結果を受け、この道路につながる取り付け道路の建設工事に伴う事前調査として行われたものである。第６次・７次調査の内容については現在整理作業中であるが、この調査によって上野遺跡の縄文時代における集落の形態が明らかになりつつあり、住居跡が検出される居住エリアとフラスコ状土坑を含む土坑群が広がる居住以外のエリアとに遺構の分布状態が分けられるという傾向が認められてきている。

今回行われた発掘調査では、上述の縄文時代中期を中心とする遺構とともに古代以降の各時期の遺構が確認された。調査地区が第６次調査の北側隣接地にあたることもあって遺跡の内容に大きな差は認められないものの、本遺跡における遺構の存在する範囲がさらに北側へ広がることが確認されたものと言えよう。

縄文時代の内容としては、大木８ａ・ｂ式期の遺構として貯蔵目的と考えられる11基のフラスコ状土坑と性格不明な浅い土坑が確認され、住居跡の検出が認められなかったことからは上述のように第６次調査で確認された居住以外のエリアに連続する部分であったことが追認されたものと言える。特に調査区の西端で検出されたＳＫ19土坑は竪穴状の長径３ｍ以上を測る不整形な土坑であり、他の土坑とは規模や形状が大きく異なる状況が認められた遺構である。位置的にも第６次調査で確認された溝状の不明遺構であるＳＸ25・26の北側に検出され、堆積土の状態はラミナ状であることや大木８ａ・ｂ式期の土器が比較的まとまって出土したことも含めて注意しなければならない遺構と言える。また、性格不明の浅い掘り込みの土坑は、フラスコ状土坑と重複して検出されたことやこのような形状の土坑に比較的遺物が多く検出されたことも含めて、その性格の解明も今後の課題としてあげられよう。

古代以降の調査成果としては、竪穴住居跡１軒、土坑１基、溝跡６条が確認された。竪穴住居跡は調査区の北側に発見され、出土遺物から奈良時代に属すると考えられる。遺構の南側を撹乱により大きく欠損するが、北東側にカマドを持ち、カマド周辺から土師器甕・甑・鉢が検出され、本住居跡の検出によりこの段階の集落跡の範囲も北側へ広がっていることが確認された。１基検出された土坑はフラスコ状土坑ＳＫ21を切って構築され、堆積土上層から大形礫が出土するという特徴が認められた。また、６条検出された溝跡は、ＳＤ１・３・５溝跡が北東方向に延び、ＳＤ２・４・６溝跡はこれに直交する北西に方向を持つものであった。このうちのＳＤ１溝跡とＳＤ６溝跡は第６次調査で確認された溝の延長部分であり、第６次調査の成果と併せて区画溝等として捉えることが可能になってきた点が大きな成果と言えよう。

引用・参考文献

伊東信雄　1950 「仙臺市内の古代遺跡」『仙臺市史３　別編１』仙臺市史編纂委員會

金森安孝・工藤哲司・千葉　仁　1986 『仙台市文化財調査報告書第88集　昭和60年度　上野遺跡　市道十文字線関係調査略報』仙台市教育委員会

工藤信一郎・中山　豊　2004 『仙台市文化財調査報告書第278集　上野遺跡－平成15年度確認調査・第５次発掘調査報告書－』仙台市教育委員会

主濱光朗　1995 「上野遺跡」『仙台市史　特別編２　考古資料』仙台市史編さん委員会

主濱光朗　2000 『仙台市文化財調査報告書第245集　鍛冶屋敷Ａ遺跡・鍛冶屋敷前遺跡－市道「富田富沢線」関連遺跡発掘調査報告書－』仙台市教育委員会

仙台市教育委員会　1995 『仙台市太白区文化財分布地図』

松本彦七郎　1930 「陸前國名取郡西多賀村の三石器時代乃至直後遺蹟（二）（完）」『考古学雑誌』第20巻第４号　考古学会

結城慎一　1989 『仙台市文化財調査報告書第127集　上野遺跡－電力鉄塔関係発掘調査報告書－』仙台市教育委員会

写　真　図　版

1．遺跡遠景（南西から）

2．第６次調査区と第８次調査区（白線の範囲・下が第６次調査区）

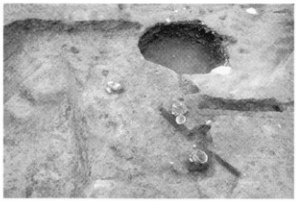
写真図版１

1．調査区全景（北東から）

2．調査区南側全景（東から）

写真図版２

1．ＳＩ１（南西から）



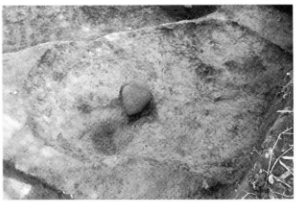
2．ＳＩ１遺物出土状態（南東から）

3．ＳＩ１遺物出土状態（南西から）

4．ＳＩ１カマド（南西から）

5．ＳＩ１カマド土層断面（西から）

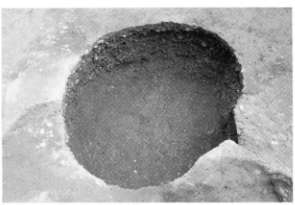
写真図版３



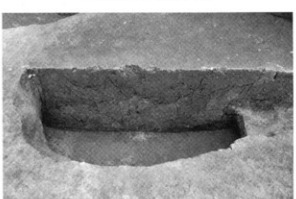
1．ＳＫ１・２（南西から）

2．ＳＫ３（北西から）

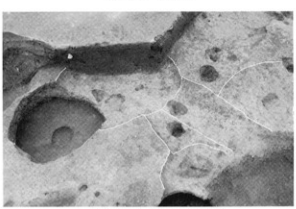
3．ＳＫ４土層断面（北から）



4．ＳＫ４（北から）



5．ＳＫ５土層断面（南から）

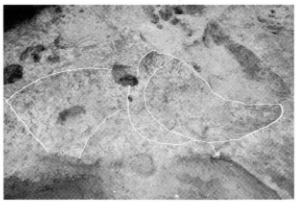


6．ＳＫ５～８、ＳＤ６（南から）

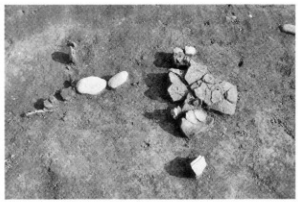
7．ＳＫ９土層断面（東から）

8．ＳＫ９（東から）

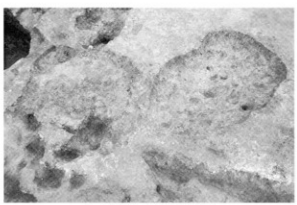
写真図版４



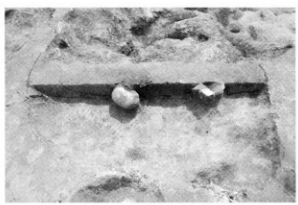
1．ＳＫ10～12・20（南から）



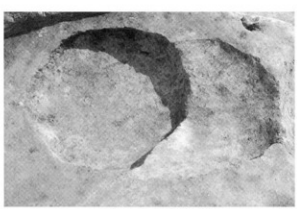
2．ＳＫ20遺物出土状態（南から）



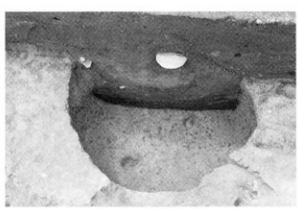
3．ＳＫ14・15（南西から）



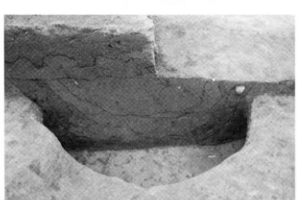
4．ＳＫ15土層断面及び遺物出土状態（北東から）



5．ＳＫ13・26（南東から）



6．ＳＫ16（南東から）



7．ＳＫ17（北西から）

8．ＳＫ18（南から）

写真図版５

1．ＳＫ19（北西から）

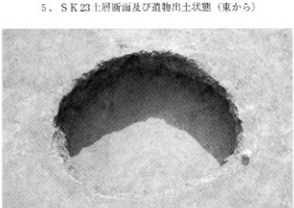
2．ＳＫ19遺物出土状態（東から）

3．ＳＫ19土偶頭部出土状態（南東から）

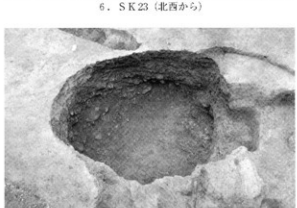
4．ＳＫ21・22（南西から）

5．ＳＫ23土層断面及び遺物出土状態（東から）

6．ＳＫ23（北西から）



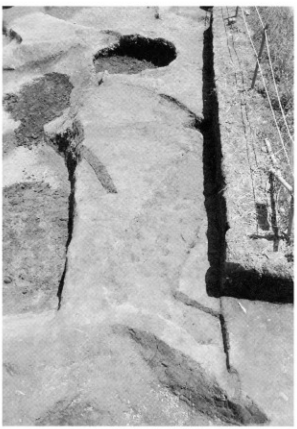
7．ＳＫ24（北東から）



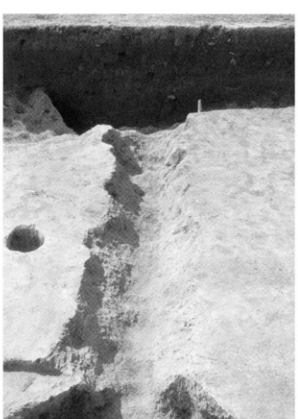
8．ＳＫ25（南西から）

写真図版６

1．SD1（北東から）



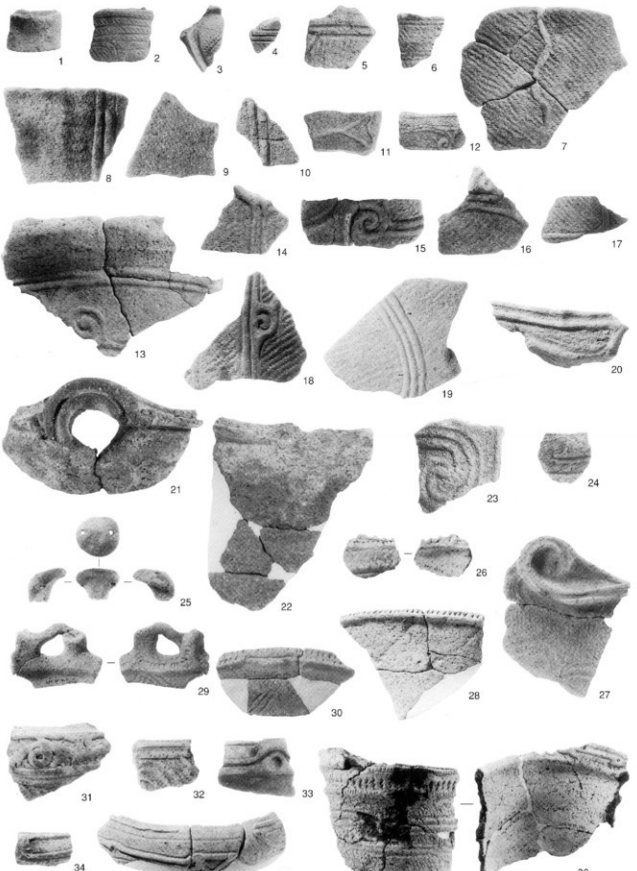
2．SD2・3（西から）



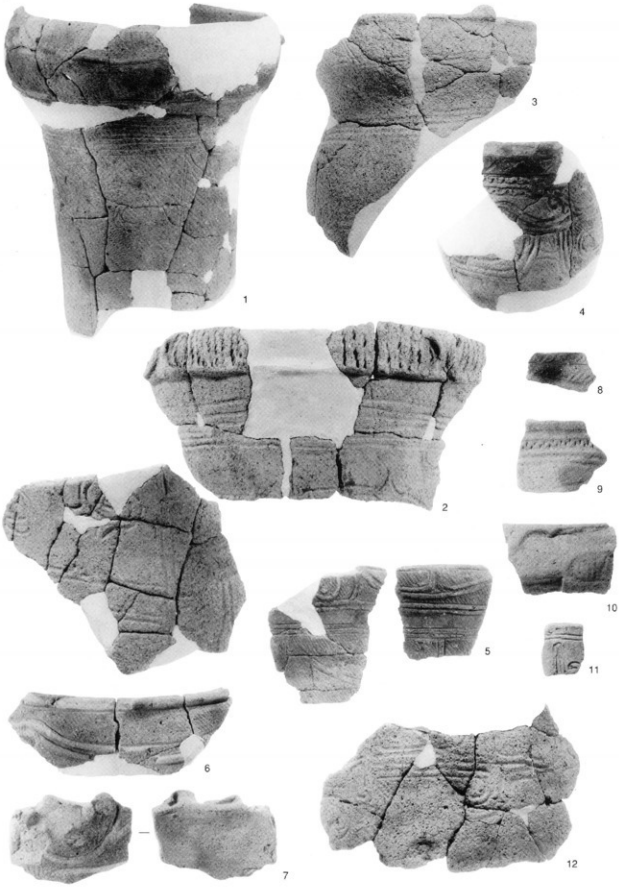
3．SD4（南東から）

4．SD5（南西から、右がSD4）

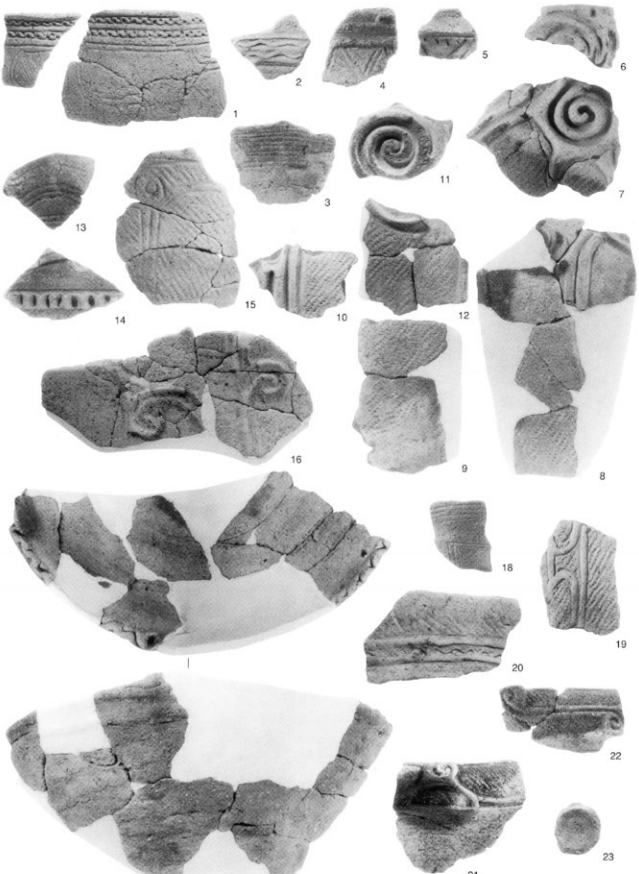
写真図版7



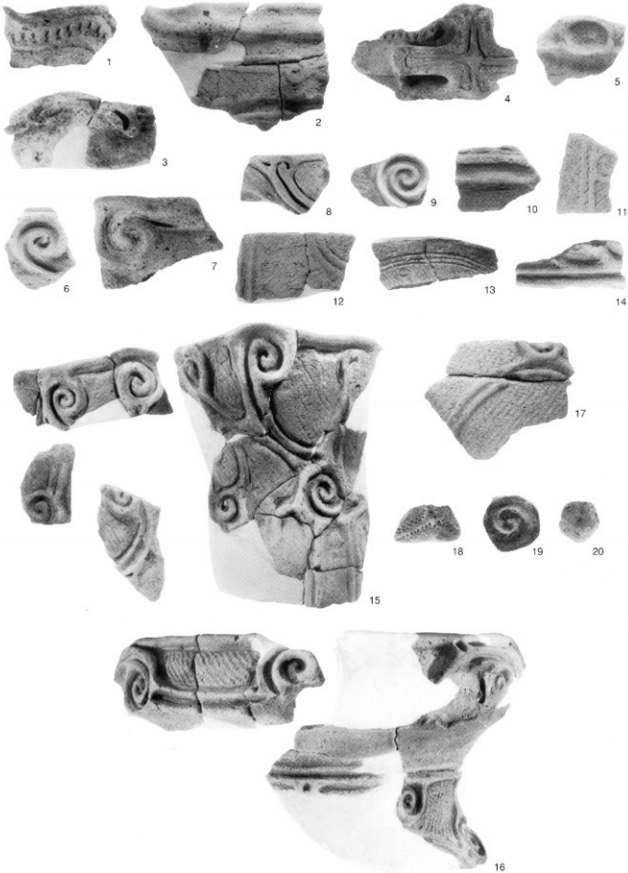
写真図版 8　土坑出土土器（1）



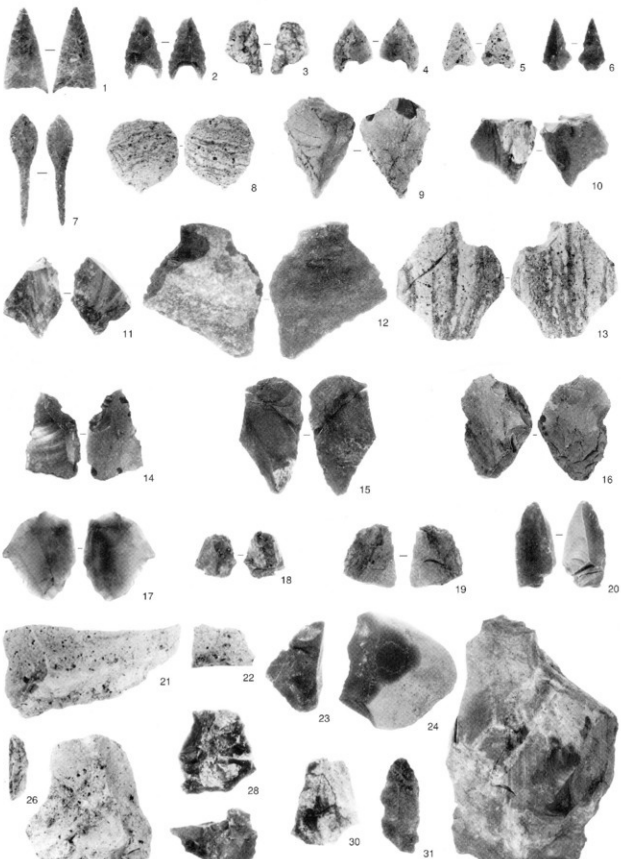
写真図版9　土坑出土土器（2）



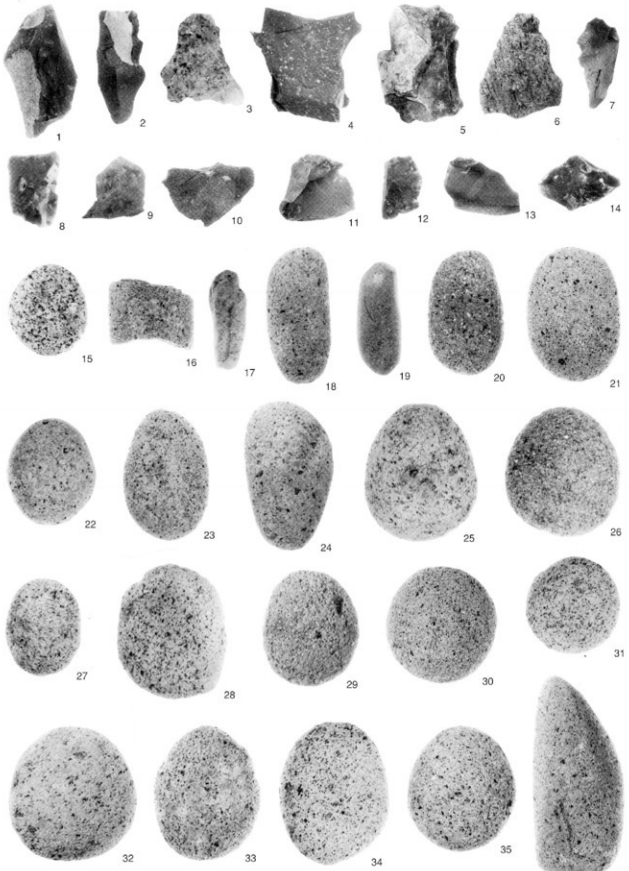
写真図版10　土坑出土土器（3）



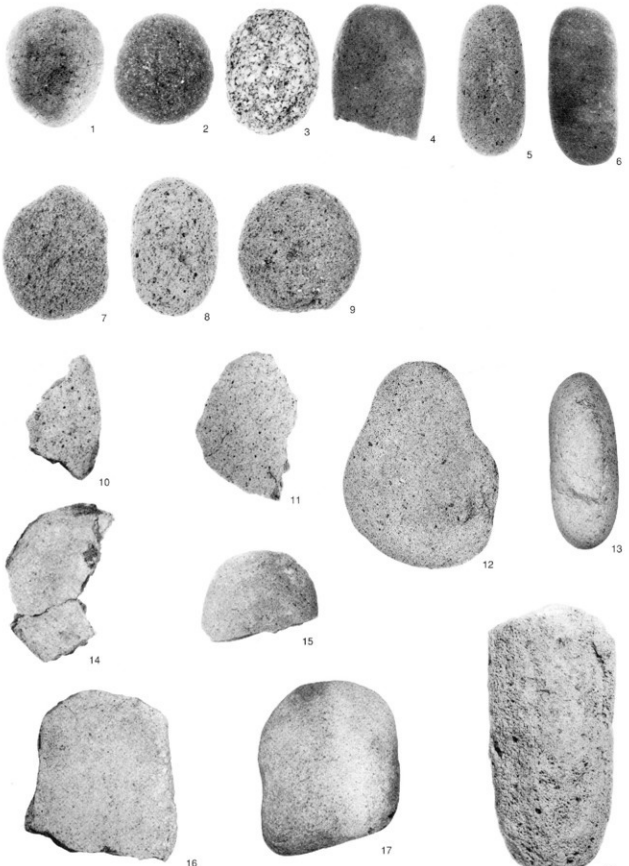
写真図版11　包含層出土土器



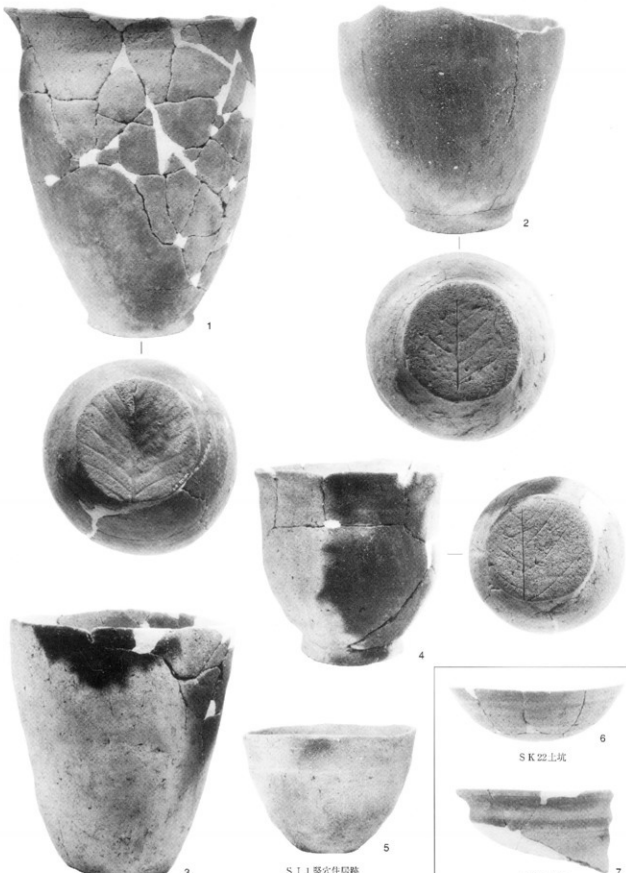
写真図版12　出土石器（1）



写真図版13　出土石器（2）



写真図版14　出土石器（3）



写真図版15　竪穴住居跡・土坑・溝跡出土土器

報告書抄録

ふりがな	うわのいせき
書名	上野遺跡
副書名	第8次発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書
シリーズ番号	第343集
編著者名	主濱光朗・麻生順司
編集機関	仙台市教育委員会
所在地	〒980－8761　宮城県仙台市青葉区国分町3丁目7番1号　　TEL 022－214－8894
発行年月日	2009年3月27日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
上野遺跡（うわのいせき）	宮城県仙台市太白区富田字上野中14－2外地内（みやぎけんせんだいしたいくとみたあざうわのなかほか）	041009	01002	38°12′39″	140°51′06″	20070601～20070713	286	都市計画道路富沢山田線取り付け道路建設工事に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上野遺跡	集落跡	縄文時代 古代以降	土坑　25基 ピット　9個 竪穴住居跡　1軒 土坑　1基 溝跡　6条	縄文土器、石器、土製品、土師器	

仙台市文化財調査報告書第343集

上野遺跡

—第8次発掘調査報告書—

平成21年3月

発行　仙台市教育委員会
仙台市青葉区国分町3丁目7番1号
仙台市教育委員会文化財課
TEL 022（214）8894

印刷　（有）平電子印刷所
福島県いわき市平北白土字西ノ内13番地
TEL 0246－23－9051